



# HTML5 向け Citrix Workspace アプリ

## Contents

<b>HTML5 向け Citrix Workspace アプリ</b>	<b>2</b>
このリリースについて	3
<b>Technical Preview の機能</b>	<b>23</b>
インストールの前提条件	23
インストール	26
開始	36
構成	37
カスタマーエクスペリエンス向上プログラム (CEIP)	45
周辺機器	48
ファイルの処理	53
キーボード	58
セッションエクスペリエンス	63
マルチモニター	65
マルチメディア	69
タッチとモビリティのサポート	78
印刷	81
トラブルシューティング	85
セキュリティ	89
<b>SDK</b>	<b>90</b>
廃止	92

## HTML5 向け Citrix Workspace アプリ

June 26, 2024

HTML5 向け Citrix Workspace アプリは、オンプレミス展開の場合はサーバーでホストされ、クラウド展開の場合はコンテンツ配信ネットワーク (CDN) でホストされます。Citrix Workspace アプリを使用すると、ユーザーは Web ブラウザーから仮想デスクトップやホストされたアプリにアクセスできます。

Citrix Virtual Apps and Desktops で提供されるリソースは 1 つのストアに集約されます。その後、Citrix Receiver for Web サイトからアクセスできるようになります。サイト上で有効になった HTML5 向け Citrix Workspace アプリにより、ユーザーは Web ブラウザー内でデスクトップやアプリケーションにアクセスできます。

機能、修正された問題、既知の問題の詳細については、「[このリリースについて](#)」ページを参照してください。

Citrix では以下をお勧めします：

- セキュリティで保護された接続を確立するには、HTTPS ベースのストアから Citrix Workspace アプリセッションを開きます。HTTP ベースのストアを使用すると、一部の機能が動作しない可能性があります。

Citrix Workspace アプリはゼロインストールクライアントであるため、ユーザーがデバイスにローカルインストールする必要はありません。

Citrix Workspace アプリを 3.0 の中央管理のカスタマイズおよびブランド化機能と合わせて使用すると、の中央管理の管理対象アプリおよびデスクトップの配信を受けることができます。

HTML5 向け Citrix Workspace アプリで使用できる機能について詳しくは、[Citrix Workspace アプリの機能マトリックス](#)を参照してください。

廃止済みの項目については、「[廃止済み](#)」ページを参照してください。

### 言語サポート

HTML5 向け Citrix Workspace アプリは、英語以外の言語での使用に適応しています。HTML5 向け Citrix Workspace アプリでサポートされている言語のリストについては、「[言語サポート](#)」を参照してください。

### 参考記事

- [Global App Configuration Service](#)
- [Microsoft Teams の最適化](#)
- [Citrix Virtual Apps and Desktops 環境での Microsoft Teams の最適化](#)
- [技術概要：Workspace のシングルサインオン](#)
- [技術論文：Citrix Workspace アプリクイックスタートガイド](#)
- [技術概要：Citrix Workspace](#)

- [開発者用のドキュメント - HTML5 向け Citrix Workspace アプリ HDX SDK](#)
- [開発者向けドキュメント - HTML5 向け Citrix Workspace アプリの Citrix 仮想チャネル SDK](#)
- [Citrix Workspace アプリのリリーススケジュール](#)

### 関連製品の到着情報

- [Citrix Workspace](#)
- [StoreFront](#)
- [Windows 向け Citrix Workspace アプリ](#)
- [ChromeOS 向け Citrix Workspace アプリ](#)
- [ワークスペースユーザーインターフェイス \(user interface: UI\)](#)

### 古いドキュメント

保守終了 (EOL) に達した製品リリースについては、[古いドキュメント](#)を参照してください。

### このリリースについて

June 27, 2024

注:

Technical Preview の機能をお探しの場合は、1 か所で見つけられるように厳選した一覧を作成しました。「[Technical Preview の機能](#)」ページをご覧ください、記載されている Podio フォームリンクを使用してフィードバックを共有してください。

#### **2404.1** の新機能

このリリースでは、パフォーマンスや安定性が総合的に向上する分野に対処しています。

#### **2404.1** で解決された問題

このリリースでは、パフォーマンスや安定性が総合的に向上する分野に対処しています。

#### **2404.1** の既知の問題

このリリースには既知の問題はありません。

注:

以前のリリースの問題については、「[既知の問題](#)」セクションを参照してください。

### 以前のリリース

このセクションでは、[Citrix Workspace アプリのライフサイクルマイルストーン](#)に従ってサポートされている以前のリリースの新機能と解決された問題に関する情報を提供します。

## 2404

### 新機能

このリリースでは、パフォーマンスや安定性が総合的に向上する分野に対処しています。

### 解決された問題

セッションツールバーから [マルチモニター] をクリックしても、セッションが自動的に拡張されない場合があります。この問題は、HTML5 向け Citrix Workspace アプリのバージョンが 2404 より前で、Google Chromium ブラウザーのバージョンが v125.0.0 以降の場合に発生します。[RFHTMCRM-12454]

## 2402

### 新機能

このリリースでは、パフォーマンスや安定性が総合的に向上する分野に対処しています。

### 解決された問題

- 最適化された Microsoft Teams 通話中に画面の共有を停止すると、ビデオセッションの代わりに空白の四角形が表示されることがあります。[RFHTMCRM-11689]
- セッション中に、水平にスクロールして右側の入力領域にアクセスすると、画面の左上にソフトキーボードが表示される場合があります。

この問題は、次の場合に発生します:

- ディスプレイの解像度をカスタムに設定する。
- マルチタッチモードを有効にする。[CVADHELP-24460] [RFHTMCRM-12106]

- iOS デバイスで HTML5 向け Citrix Workspace アプリを使用する場合、**Delete** キーを押すと 2 文字が一度に削除されます。この問題は、キーボードの言語を繁体字中国語から英語に切り替えると発生します。[CVADHELP-24216] [RFHTMCRM-11787]
- クラウドストアのツールバーの [...] > [切断] ボタンから仮想アプリまたはデスクトップセッションを切断しようとする、Citrix Studio でセッションがアクティブなままになります。ただし、セッションの状態は数分後に非アクティブに変わります。[RFHTMCRM-11642]
- HTML5 向け Citrix Workspace アプリがコンテンツ配信ネットワーク (CDN) から使用されるように設定されている場合、セッションが失敗する可能性があります。この問題は、HTML5 を使用して HDX SDK を使用するときが発生します。[RFHTMCRM-11765]
- アプリセッションを開始すると、ディスプレイの解像度を自動調整に設定している場合でも、水平スクロールバーと垂直スクロールバーが表示されます。[RFHTMCRM-11650]
- HTML5 向け Citrix Workspace アプリセッションを開始し、セッションツールバーから切断すると、Citrix Studio ではセッションがアクティブなままになります。この問題は、オンプレミス展開時に発生します。[RFHTMCRM-12017]
- Safari ブラウザーを使用して仮想デスクトップセッションを開始すると、Web カメラが正しく動作しない場合があります。[RFHTMCRM-12348]
- 仮想デスクトップセッションを開始し、その後にアプリセッションを開始すると、アプリセッションに垂直スクロールバーと水平スクロールバーの両方が表示されます。[RFHTMCRM-12245]
- クラウド展開では、HTML5 セッションを初めて開始すると、読み込み中アイコンが表示されたままになります。[RFHTMCRM-11754]
- Linux VDA セッションを開始すると、セッションに反映される時刻がエンドユーザーのデバイスのローカルタイムゾーンと一致しない場合があります。[RFHTMCRM-11602]

## 2312

### 新機能

セカンダリ呼び出しのサポート セカンダリ呼び出し機能を使用して、Microsoft Teams が最適化されているときに受信通知を受け取るセカンダリデバイスを選択できます。

たとえば、スピーカーをセカンダリ呼び出し機器として設定し、エンドポイントがヘッドフォンに接続されているとします。この場合、Microsoft Teams は受信の呼び出し音をヘッドフォンとスピーカーの両方に送信します。次の場合、セカンダリ呼び出しを設定することはできません：

- 複数のオーディオデバイスが接続されていない場合
- 周辺機器 (Bluetooth ヘッドセットなど) が利用できない場合

### 注:

デフォルトでは、この機能は無効になっています。

詳しくは、「[セカンダリ呼び出しのサポート](#)」を参照してください。

最適化された **Microsoft Teams** ビデオ会議通話でサイマルキャストの実装 2312 リリース以降、最適化された Microsoft Teams ビデオ会議通話に対して、デフォルトでサイマルキャストサポートが有効になっています。このサポートにより、さまざまなエンドポイントでのビデオ会議通話の品質とエクスペリエンスが向上します。適切な解像度に適応することによってすべての発信者に最適な通話エクスペリエンスを提供します。

この向上したエクスペリエンスにより、各ユーザーは、複数のビデオ ストリームを異なる解像度（720p、360p など）で配信できます。これは、エンドポイントの機能、ネットワークの状態などのいくつかの要因によって異なります。次に、受信側のエンドポイントは、可能な範囲で最高品質の解像度を要求します。これにより、すべてのユーザーに最高のビデオ体験を提供できます。

### 解決された問題

- iOS デバイスでは、セッションを開始すると、前の HTML5 セッションのクリップボードデータが同意なしに貼り付けられます。この問題は、外部キーボードで **Ctrl+a** や **Ctrl+x** などのキーの組み合わせを使用したり、2つのアプリケーションを切り替えるときに入力をし続けた場合に発生する可能性があります。  
[RFHTMCRM-10834] [CVADHELP-23753]
- LongCommandLine 引数を使用してセッションを開始すると、セッションの開始に失敗する場合があります。この問題は、macOS および iOS デバイスで Apple Safari ブラウザーを使用している場合に発生します。  
[CVADHELP-23753]

## 2311

### 新機能

このリリースでは、パフォーマンスや安定性が総合的に向上する分野に対処しています。

### 解決された問題

- iPad では、Zhuyin キーボードに切り替えて 1 や 2 などの 1 桁の数字を入力すると、入力が複製され 11 や 22 などの 2 桁の数字になります。  
  
この問題は、iPad OS 16 を実行している iPad 上で、HTML5 向け Citrix Workspace アプリを使用して VDA 2203 LTSR バージョンベースの仮想アプリまたはデスクトップにアクセスすると発生します。  
[CVADHELP-23639]

- 起動を向上させる新しい機能が有効になっているクラウド展開に古いオンプレミス Citrix UI がある場合、HTML5 セッションの開始に失敗する可能性があります。[CCVADHELP-3080]
- デスクトップセッションを開始して Citrix Director コンソールを確認すると、ICA 往復時間値がゼロと表示される場合があります。ICA 往復時間値は、セッションの開始直後に確認すると、正の値になることがあります。ただし、しばらくすると、ゼロとして表示される場合があります。[CVADHELP-23905]
- オンプレミス展開を使用してデスクトップセッションを開始すると、Citrix Workspace アプリの UI にプログレッシブな起動ステータスメッセージが表示される場合があります。ただし、UI にはすぐに次のエラーメッセージが表示されます：

「デスクトップを起動できません」

この問題は、HTML5 向け Citrix Workspace アプリが電源オフ状態のデスクトップにアクセスしようとする  
と発生します。その後、Citrix Workspace アプリは、エラーダイアログを表示せず、デスクトップの電源が  
オンになるまで待機するようになりました。[CVADHELP-23140]

## 2310

### 新機能

このリリースでは、パフォーマンスや安定性が総合的に向上する分野に対処しています。

### 解決された問題

- デスクトップセッションで最適化された Microsoft Teams を使用する場合、ディスプレイ解像度を [デバイスのピクセル縦横比でスケール] オプションに設定すると、参加者のビデオが正しく表示されない場合があります。[RFHTMCRM-5271]
- セッション中に、スピーカーとマイクの両方を含むオーディオデバイスが表示されません。この問題は、ローカルマシンにマイクデバイスがない場合、またはユーザーがすべてのマイクデバイスを無効にした場合に発生します。この問題はすべてのブラウザで発生します。[RFHTMCRM-10900]
- セッションでは、**Command** キーと数字、または特殊キーなどのキーの組み合わせが正常に動作しない可能性があります。この問題は、Mac デバイスで Linux VDA セッションを開始するときに発生します。[RFHTMCRM-5505]
- セッションを開始すると、[起動エラー] のエラーメッセージが表示され、セッションを閉じることを選択すると、タブを閉じる代わりに **Leave site?** 通知が表示されます。[RFHTMCRM-10299]
- まれに、ログファイルにデータが含まれない場合があります。この問題は、エラーダイアログ ボックスで [ログのダウンロード] クリックすると発生します。[RFHTMCRM-10732]



## 2309

### 新機能

スキャンコード入力モード Citrix Workspace アプリを使用すると、外部の物理キーボードを使用して、VDA のサーバー側のキーボードレイアウトと連携できます。管理者がスキャンコードモードを有効にすると、エンドユーザーはクライアントではなくサーバーのキーボードレイアウトを使用する可能性があります。

この機能により、特に東アジア言語の物理キーボードを使用する場合のユーザーエクスペリエンスが向上します。

#### メモ:

- デフォルトでは、この機能は無効になっています。
- タッチデバイスでは、スキャンコードが有効になっていると、Citrix Workspace アプリでスクリーンキーボードソフトウェアが機能しません。

構成について詳しくは、「[スキャンコードの入力モード](#)」を参照してください

### 解決された問題

- 仮想アプリセッションを使用しているとき、カーソルは移動するものの、特定のアプリケーション領域でポインターアイコンが変化しません。[CVADHELP-23499]
- WebAssembly (.wasm) ファイルがネットワーク内でブロックされている場合、Citrix Workspace アプリのセッションが開始されない可能性があります。[RFHTMCRM-10801]

## 2308

### 新機能

このリリースでは、パフォーマンスや安定性が総合的に向上する分野に対処しています。

### 2308 で解決された問題

- クライアントデバイスでフランス語のキーボードレイアウトを使用すると、VDA セッションで一部の句読点キーが正しく表示されないことがあります。この問題が発生するのは、macOS デバイスで Mozilla Firefox ブラウザーを使用してセッションを開始した場合です。[RFHTMCRM-8708]
- タッチデバイスでは、セッションで拡大および縮小のジェスチャを使用すると、セッション内のツールバーの位置が正しく表示されないことがあります。[RFHTMCRM-10264]
- 物理キーボードが接続された iPad 上のブラウザでセッションを起動すると、コマンド **+a**、コマンド **+c**、コマンド **+x** などの組み合わせ合わせが正常に動作しない場合があります。この問題は、Linux VDA セッションを開始するときに発生します。[RFHTMCRM-5917]

## 2307

### 新機能

**HDX** セッションのエクスペリエンスの強化 強化された圧縮技術により、ChromeOS 向け Citrix Workspace アプリではネットワークリソースの消費量が減少し、セッションの応答性が向上しています。

**Microsoft Teams** の機能強化 Microsoft Teams の最適化では、Microsoft Teams でライブキャプションが有効になっているときにスピーカーが話す内容のリアルタイムの文字起こしがサポートされています。

### 解決された問題

- セッションが開始されても、画面右下に表示されるセッション起動の進行状況通知ウィンドウが閉じない場合があります。この問題は、VDA バージョンが 7.15 の場合に発生します。[RFHTMCRM-10161]

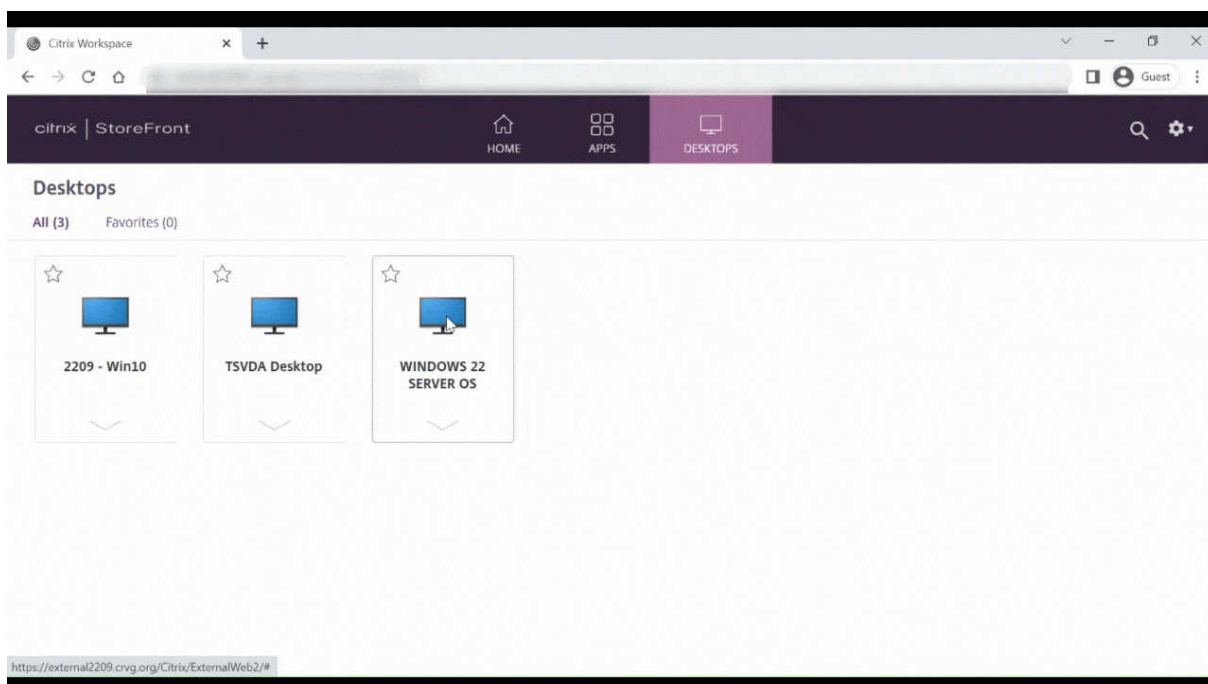
## 2306

### 新機能

仮想アプリとデスクトップの起動エクスペリエンスの向上 2306 リリース以降、アプリとデスクトップの起動エクスペリエンスが向上し、起動状態に関連した情報がタイムリーに提供されます。

#### 注:

HTML5 向け Citrix Workspace アプリ 2306 バージョンを使用するには、管理者が HDX SDK ファイルをアップグレードする必要があります。古い HDX SDK ファイルは、2306 バージョン以降と互換性がありません。最新の HDX SDK ファイルをダウンロードするには、[こちら](#)をクリックしてください。詳しくは、「[Citrix Workspace app for HTML5 HDX SDK](#)」の開発者向けのドキュメントを参照してください。



### 解決された問題

- 最適化された Microsoft Teams 会議に参加していると、カメラのストリーミングが失敗します。ビデオがぼやけて見えたり、ビデオが応答しなくなることがあります。この問題は、画面共有機能が無効になっており、エンドユーザーが Microsoft Teams 会議でカメラを有効にしている場合に発生します。[RFHTMCRM-9968]
- セッションがタブレットモードの場合、タッチデバイスのスタイラスペンが機能しない可能性があります。[RFHTMCRM-9951]
- クラウド展開では、HTML5 セッションタブが VDI の電源がオンになるまで待機しませんでした。代わりに、セッションタブには ICA 接続に関連するエラーメッセージが表示されました。この問題は、VDI の電源がオンになる前にセッションがタイムアウトした場合に発生します。[RFHTMCRM-9414]

## 2305

### 新機能

仮想チャネル **SDK** の機能強化 2305 リリース以降、HTML5 向け Citrix Workspace アプリは、仮想チャネル SDK の Windows Management API をサポートします。Web API を使用すると、IT 管理者は対話型アプリケーションを作成し、エンドユーザー向けにカスタマイズできます。

### 解決された問題

- カスタムドメインストア URL を使用すると、Citrix Workspace アプリセッションの開始に失敗する場合があります。[RFHTMCRM-8482] [RFHTMCRM-9406]
- Microsoft Teams を使用する場合、特定のマルチモニター レイアウトでは受信ビデオまたは画面共有が表示されない場合があります。この問題は、拡張モニターが左側または上部にある場合に発生します。ビデオ領域は黒または白で表示されます。[RFHTMCRM-9159]
- マルチモニターモードでは、プライマリモニターウィンドウのサイズを全画面に変更すると、受信ビデオまたは画面共有プレビュービデオが表示されなくなる場合があります。

この問題は、ウィンドウが拡張モードで、プライマリ画面の解像度がセカンダリ画面よりも低い場合に発生します。[RFHTMCRM-9277]
- セッションで 2 人の参加者が最適化された Microsoft Teams 会議に参加している場合、画面共有とオーディオが失敗することがあります。この問題は、通話中にカメラを数回有効または無効にすると発生します。[CVADHELP-22251]
- デバイスを ChromeOS バージョン 108 にアップグレードすると、公開デスクトップ上のテキストがぼやけて表示される場合があります。この問題は、グラフィック処理装置 (GPU) が中精度をサポートしていないデバイスで発生します。[CVADHELP-22362]

#### 注:

- 一部のデバイスの表示設定は高精度をサポートしておらず、公開デスクトップ上のテキストが正しく表示される場合があります。ただし、この修正により表示がおかしくなる場合があります。これを修復するには、管理者が **configuration.js** ファイルで **webglHighPrecision** 属性を **false** に設定します。

このような JSON データの例を次に示します:

```
1  "hardware" : {
2
3
4      "webglHighPrecision" : false
5  }
6  ,
7  <!--NeedCopy-->
```

## 2304

### 新機能

タッチデバイスでのジェスチャの機能強化 2304 リリース以降、Citrix Workspace アプリでは次のエンドユーザーエクスペリエンスが強化されています:

- モバイルデバイスでのジェスチャ、マルチタッチ、ソフトキーボード機能。
- タブレットモードでのソフトキーボード機能。

Citrix Workspace アプリセッションで、タップ、スワイプ、ドラッグ、ピンチ、ズームなど、一般的なマルチタッチジェスチャを使用できます。

ジェスチャガイドは次のとおりです：

これを行うには、以下の手順に従います：	<b>Citrix Workspace</b> アプリで次の操作をする：
クリック	1 本指でタップ
右クリック	タッチしたまま押さえて離す
キーボードを表示する	3 本の指でタップ（またはツールバーのキーボードアイコンをタップ）
Zoom	ピンチインとピンチアウト
ドラッグ	タッチしてそのままドラッグする方向に指を動かす
カーソルを有効にする	2 本の指でタップ

---

### 解決された問題

- このリリースで解決された問題はありません。

## 2303

### 新機能

オーディオデバイスのプラグアンドプレイのサポート 以前は、単一のオーディオ再生および録音デバイスのみがサポートされ、実際のデバイス名に関係なく「**Citrix HDX Audio**」として表示されていました。

2303 バージョン以降、複数のオーディオデバイスを接続し、VDA にリダイレクトできます。USB オーディオデバイスをリダイレクトするときに、VDA の **[Sound]** > **[Playback]** と **[Sound]** > **[Recording]** でオーディオデバイスの実際の名前が表示されるようになりました。VDA 上のデバイス一覧は、オーディオデバイスを接続する、または取り外すたびに動的に更新されます。

#### 注：

- この機能は、デフォルトで有効になります。

詳しくは、「[オーディオデバイスのプラグアンドプレイのサポート](#)」を参照してください。

クライアントドライブマッピング 以前は、ローカルマシンから仮想環境にファイルをコピーできませんでした。セッション内で、ファイルエクスプローラーからローカルドライブに直接アクセスすることはできませんでした。

2303 バージョン以降、クライアントドライブマッピング (CDM) 機能によりローカルマシンでのフォルダーのマッピングがサポートされ、セッション内からアクセスできるようになります。システムファイルが含まれていない場合に、ローカルマシンから任意のフォルダーをマップできます。

エンドユーザーは次の操作を実行できます：

- ファイルとフォルダーをローカルマシンからセッション内のマップされたドライブにコピーする。
- マップされたドライブでファイルとフォルダーの一覧を表示する。
- マップされたドライブでファイルの内容を開いて読み取る。
- マップされたドライブでファイルのプロパティ (変更時刻とファイルサイズのみ) を表示する。

この機能を使用すると、HDX セッション内のファイルエクスプローラーで、仮想デスクトップドライブとローカルマシンドライブの両方に同時にアクセスできるという利点があります。この機能は、デスクトッププラットフォーム、Google Chrome および Microsoft Edge Chromium ブラウザーでのみサポートされます。

注：

この機能は、デフォルトで有効になります。

詳しくは、「[クライアントドライブマッピング](#)」を参照してください。

**Microsoft Teams** の最適化における背景のぼかしと効果 2303 リリース以降、HTML5 向け Citrix Workspace アプリで、Microsoft Teams によるビデオ通話の最適化の背景のぼかしと効果が導入されました。これで、背景をぼかしたり、Microsoft Teams が提供する背景の効果に置き換えたりして、会話の最中シルエット (体と顔) に集中できるようにすることで、突然集中力が乱されることを回避できます。この機能は、P2P および電話会議で使用できます。

メモ：

- デフォルトでは、この機能は無効になっています。
- この機能は、Microsoft Teams の UI と統合されました。マルチウィンドウのサポートは、VDA を 2112 以降に更新するときに必要な前提条件です。詳しくは、「[マルチウィンドウ会議とチャット](#)」を参照してください。

詳しくは、「[Microsoft Teams の最適化における背景のぼかしと効果](#)」を参照してください。

モバイルプラットフォームでのコンボボックスのサポート バージョン 2303 以降、小さな画面におけるコンボボックス内の UI 要素の選択がよりスムーズになりました。管理者は、ポリシー [コンボボックスをデバイス側で表示する] を有効にして、iOS および Android モバイルでチェックボックス、ドロップダウンリストオプション、ラジオボタンなどの選択操作をスムーズにすることができます。

詳しくは、Citrix Virtual Apps and Desktops ドキュメントの「[コンボボックスをデバイス側で表示する](#)」を参照してください。

注:

この機能はデフォルトで有効になっています。

詳しくは、「[モバイルプラットフォームでのコンボボックスのサポート](#)」を参照してください。

### 解決された問題

- クラウド展開では、強化された PDF 印刷機能が動作しません。印刷プレビューが表示されません。  
[RFHTMCRM-8691]

## 2301.1

### 新機能

このリリースでは問題に対応しているため、パフォーマンスや安定性が総合的に向上しています。

### 解決された問題

- Citrix Virtual Apps and Desktops セッションへのオーディオデバイスのリダイレクトが機能していません。システムトレイの音量操作アイコンに赤い「X」マークが表示されます。この問題は、HTML5 向け Citrix Workspace アプリを 2301 バージョンに更新した後に発生します。[RFHTMCRM-8799]

## 2301

### 新機能

**Microsoft Teams** のマルチウィンドウチャットと会議 バージョン 2301 以降では、Microsoft Teams でのチャットと会議に複数のウィンドウを使用できます。会話や会議をさまざまな方法でポップアウトできます。

ポップアウトウィンドウ機能について詳しくは、「[Pop out a chat in Teams](#)」を参照してください。

トラブルシューティングについては、[CTX253754](#)を参照してください。

Microsoft では、将来的に単一ウィンドウのサポートを廃止する予定です。古いバージョンの Citrix Workspace アプリまたは Virtual Delivery Agent (VDA) を実行している場合は、次のバージョンにアップグレードできます:

- Citrix Workspace アプリ 2301 以降  
および
- VDA - 2203 以降

オーディオデバイスのプラグアンドプレイのサポート 以前は、単一のオーディオ再生および録音デバイスのみがサポートされ、実際のデバイス名に関係なく「**Citrix HDX Audio**」として表示されていました。

2301 リリース以降、複数のオーディオデバイスがサポートされ、それらは VDA にリダイレクトされます。これで、オーディオデバイスをリダイレクトするときに、VDA の **[Sound] > [Playback]** と **[Sound] > [Recording]** でオーディオデバイスの実際の名前が表示されるようになりました。VDA 上のデバイス一覧は、オーディオデバイスを接続する、または取り外すたびに動的に更新されます。

詳しくは、「[オーディオデバイスのプラグアンドプレイのサポート](#)」の記事を参照してください。

### 解決された問題

- Citrix Virtual Apps and Desktops バージョン 2206 以降を使用すると、Web カメラのリダイレクトが機能しません。最新の修正プログラムにより、バージョン 2301 以降の HTML5 向け Citrix Workspace アプリから Web カメラのリダイレクトが正常に行われるようになりました。[RFHTMCRM-8580]
- マルチモニターモードで、セッション内に白い斑点が見られます。この問題は、Google Chrome および Microsoft Edge Chromium ブラウザーで HTML5 向け Citrix Workspace アプリのセッションのポップアップをブロックすると発生します。[RFHTMCRM-8476]
- Chromebook を使用して、最適化された Microsoft Teams から通話しようとする、通話が正常に機能しません。次のエラーメッセージが表示されます：  
「Sorry, it wasn't possible to connect. (申し訳ありません。接続できませんでした。)」[CVADHELP-21670]  
[CVADHELP-21500]
- Global App Configuration Service の設定をプッシュすると、変更が適用されない場合があります。[RFHTMCRM-8710]

## 2212

### 新機能

クライアントドライブマッピング **[Technical Preview]** 以前は、ローカルマシンから仮想環境にファイルをコピーするには、ファイルを仮想セッションにアップロードし、仮想セッションからファイルをダウンロードする必要がありました。セッション内で、ファイルエクスプローラーからローカルドライブに直接アクセスすることはできませんでした。

このリリース以降、クライアントドライブマッピング (CDM) 機能の初期バージョンによりローカルマシンでのフォルダーのマッピングがサポートされ、セッション内からアクセスできるようになります。システムファイルが含まれていなければ、ローカルマシンから任意のフォルダーをマップできます。マップしたフォルダーは、セッション内で **L:** ドライブとして表示されます。

エンドユーザーは次の操作を実行できます：



- ファイルとフォルダーをローカルマシンからセッション内のマップされたドライブにコピーする。
- マップされた **L**: ドライブでファイルとフォルダーの一覧を表示する。
- マップされた **L**: ドライブでファイルの内容を開いて読み取る。
- マップされた **L**: ドライブでファイルのプロパティ（変更時刻とファイルサイズのみ）を表示する。

この機能を使用すると、HDX セッション内のファイルエクスプローラーで、仮想デスクトップドライブとローカルマシンドライブの両方に同時にアクセスできるという利点があります。この機能は、Google Chrome および Microsoft Edge Chromium ブラウザーでのみサポートされます。デフォルトでは、この機能は無効になっています。

### 注:

- これは、リクエストベースで提供されるプレビュー機能です。ご使用の環境でこれを有効にするには、[Podio フォーム](#)に記入してください。

### 解決された問題

- マルチタッチモードを有効にすると、Citrix Workspace アプリセッション内で一部のタッチ操作が機能しない場合があります。[RFHTMCRM-8445]

## 2211

### 新機能

**仮想キーボードの自動表示** 今回のリリース以降、編集可能なフィールドにカーソルを置くと、仮想キーボードが自動的に表示されます。この機能は、仮想キーボードを表示するためにキーボードアイコンをクリックする必要があった以前の動作とは異なり、タッチスクリーンデバイスでのユーザーエクスペリエンスを向上させます。

**アダプティブオーディオ** アダプティブオーディオを使用すれば、VDA で音質ポリシーを構成する必要はありません。アダプティブオーディオは環境の設定を最適化します。従来のオーディオ圧縮形式を置き換え、優れたユーザーエクスペリエンスを提供します。

詳しくは、Citrix Virtual Apps and Desktops ドキュメントの「[アダプティブオーディオ](#)」を参照してください。

構成方法について詳しくは、「[アダプティブオーディオ](#)」セクションを参照してください。

### 解決された問題

- 画面を管理者と共有して Virtual Desktop Infrastructure (VDI) セッションを表示すると、画面で管理者と自分のマウスポインターを両方見ることができます。[RFHTMCRM-7726]

## 2210

### 新機能

**アダプティブオーディオ (Technical Preview)** アダプティブオーディオを使用すれば、VDA で音質ポリシーを構成する必要はありません。アダプティブオーディオは環境の設定を最適化します。従来のオーディオ圧縮形式を置き換え、優れたユーザーエクスペリエンスを提供します。

詳しくは、Citrix Virtual Apps and Desktops ドキュメントの「[アダプティブオーディオ](#)」を参照してください。

構成方法について詳しくは、「[アダプティブオーディオ](#)」セクションを参照してください。

### 解決された問題

- Windows クライアントのキーボードレイアウトが韓国語の場合、Enter キーを押した後、作成ウィンドウで最後に入力した文字が削除されます。この問題は、Secure Browser サービス (SBS) アプリのセッションを起動したときに発生します。[RFHTMCRM-7449]

## 2209

### 新機能

**Microsoft Teams** での画面共有の最適化 以前のバージョンでは、画面共有機能はデフォルトで無効になっていました。バージョン 2209 以降では、デフォルトで画面共有が有効になっています。エンドユーザーは、Citrix Workspace アプリで開いたアプリとタブを共有できるようになりました。

詳しくは、「[画面共有](#)」セクションを参照してください。

### 解決された問題

- マルチモニターモードで、閉じるボタン (X) をクリックして通常モードに切り替えようとする時、この操作が正常に機能しない場合があります。この問題を回避するには、セッションツールバーの復元ボタンを使用して、マルチモニターモードから通常モードに切り替えます。[RFHTMCRM-7403]
- セッションで、最適化された Microsoft Teams 会議に 3 人以上の参加者がいる場合、画面共有機能が正常に動作しないことがあります。この問題は断続的に発生します。[RFHTMCRM-7409]
- 最適化された Microsoft Teams から外部の会議に参加すると、参加者からの音声は正常に聞こえませんが、「Couldn't find a microphone (マイクが見つかりませんでした)」というエラーメッセージが表示されます。この問題を回避するには、Microsoft Teams アプリを終了してから、再度参加してください。[CVADHELP-20625]

## 2208

### 新機能

**マルチモニターサポート** 以前のマルチモニター表示機能では、接続しているデスクトップまたはアプリのセッションのブラウザータブを追加で開くことができました。その後、追加のブラウザータブを外部モニターにドラッグできました。

今回のリリースでは、Citrix Workspace アプリは、手作業ではなくワンクリックで複数のモニターに対応できるようになりました。

詳しくは、「[構成](#)」セクションでマルチモニターのサポートについて参照してください。

**LaunchDarkly サービスを無効にするプロビジョニング** このリリース以降、オンプレミスストアとクラウドストアの両方で LaunchDarkly サービスを無効にすることができます。

詳しくは、「[機能フラグ管理](#)」セクションを参照してください。

### 解決された問題

- セッションで、最適化された Microsoft Teams 会議に 3 人以上の参加者がいる場合、参加者のビデオがフリーズすることがあります。この問題は断続的に発生します。[RFHTMCRM-7251]
- Mozilla Firefox ブラウザーで HTML5 セッションを使用している場合、外部モニターウィンドウでバックslash キーを押すと、クイック検索バーが表示されます。この問題はマルチモニターモードのときに発生します。[CVADHELP-20396]
- Mozilla Firefox ブラウザーで HTML5 セッションを使用すると、マウスのスクロール機能がセカンダリウィンドウで機能しない場合があります。この問題はマルチモニターモードのときに発生します。[CVADHELP-20306]
- 最適化された Microsoft Teams ビデオ通話で、3 番目の参加者を追加すると、通話が切断されます。[CVADHELP-20586]

## 2207

### 新機能

このリリースでは問題に対応しているため、パフォーマンスや安定性が総合的に向上しています。

### 解決された問題

このリリースでは問題に対応しているため、パフォーマンスや安定性が総合的に向上しています。

## 2206

### 新機能

**従来のブラウザのサポート** バージョン 2206 以降、従来のブラウザはサポートされなくなりました。これには、古いバージョンの Microsoft Edge、すべてのバージョンの Microsoft Internet Explorer、および WebAssembly (Wasm) をサポートしていないすべてのブラウザが含まれます。

**Microsoft Teams の最適化** Microsoft Teams は、Google Chrome ブラウザーでのみ音声通話、ビデオ通話、および画面共有機能をサポートしています。Google Chrome はバージョン m97 以降が必要です。

詳しくは、「構成」セクションの「[Microsoft Teams の最適化](#)」を参照してください。

**拡張ログ機能** 以前は、クライアントログとコンソールログを別々に収集する必要がありました。今回のリリース以降、コンソールログはクライアントログの一部になります。

**クリップボードが HTML 形式をサポート** このリリース以降、仮想デスクトップとエンドポイントデバイス間のクリップボード操作に、HTML 形式を使用できるようになりました。HTML データをコピーすると、ソースコンテンツの形式がコピーされ、データを貼り付けると、コピー先のコンテンツにその形式が適用されます。また、HTML 形式は外観が良くなります。

ポリシーの設定方法について詳しくは、Citrix Virtual Apps and Desktops ドキュメントの「[クライアントクリップボードに書き込みを許可する形式](#)」を参照してください。

**仮想チャネル SDK のサポート** このリリースでは、Citrix VC SDK で、ICA プロトコルを使用したサーバー側アプリケーションとクライアント側ドライバーの作成をサポートしています。サーバー側仮想チャネルアプリケーションは、Citrix Virtual Apps and Desktops サーバー上にあります。

VC SDK は新しい仮想チャネルの作成をサポートし、HTML5 向け Citrix Workspace アプリは最大 20 のカスタム仮想チャネルをサポートできます。

詳しくは、「構成」セクションの「[仮想チャネル SDK のサポート](#)」を参照してください。

**マルチモニターサポート (Technical Preview)** 以前は、マルチモニター表示機能を使用して、接続しているデスクトップまたはアプリのセッションのブラウザタブを追加作成し、その後、追加のブラウザタブを外部モニターにドラッグできました。

今回のリリースでは、Citrix Workspace アプリは、手作業ではなくワンクリックで複数のモニターに対応できるようになりました。デバイスに外部モニターが接続されていない場合、セッション中のツールバーにマルチモニターアイコンは表示されません。必要な権限を使用して外部モニターを接続した場合に、マルチモニターアイコンが表示されます。アイコンをクリックすると、接続されているすべてのモニターにウィンドウパンが表示されます。

詳しくは、「構成」セクションの「[マルチモニターサポート \(Technical Preview\)](#)」を参照してください。

### 解決された問題

- Citrix Workspace アプリのバージョンを 2112 以降に更新すると、Internet Explorer ブラウザーでのデスクトップセッションが失敗します。次のエラーメッセージが表示されます: 'Store' is undefined. (「ストア」が未定義です)。

この問題は、内部コードエラーが原因で発生します。[CVADHELP-19883]

## 2205.6

### 新機能

このリリースでは問題に対応しているため、パフォーマンスや安定性が総合的に向上しています。

### 解決された問題

- 管理者がグローバルアプリ構成サービス (Global App Configuration Service: GACS) を使用して設定をロールアウトした場合に、Citrix Workspace アプリがそれらの設定を適用しないことがあります。[RFHTMCRM-7198]

### 既知の問題

#### 2402 の既知の問題

- 一時ファイルに依存するアプリを使用してファイルをダウンロードしたり、VDA からマップされたドライブ内のファイルを変更したりしようとする、データが破損する可能性があります。たとえば、ブラウザー、Excel などの Microsoft Office アプリなどの場合です。[RFHTMCRM-12156] [CVADHELP-24459]
- ツールバーの [...] > [切断] ボタンから仮想アプリまたはデスクトップセッションを切断しようとする、Citrix Studio でセッションがアクティブなままになります。この問題は、Citrix Gateway で構成されたオンプレミスストアで発生します。[HDX-60157]

#### 2310 の既知の問題

- Google Chrome ブラウザーで HTML5 向け Citrix Workspace アプリを使用してデスクトップセッションを開始すると、UI をブロックする緑色の領域が表示画面に現れます。この問題は、起動したデスクトップ内でアプリケーションウィンドウを移動すると発生する可能性があります。[CVADHELP-23377]

### 2203 の既知の問題

- 一部の Citrix Virtual Apps and Desktops または XenDesktop では、Web カメラのリダイレクトが機能しない場合があります。[HDX-39396]

### 2202 の既知の問題

- Microsoft Teams の最適化を使用して画面を共有すると、画面共有を示す赤い境界線が表示されません。[RFHTMCRM-6360]

### 2108.2 の既知の問題

Citrix Studio で、[圧縮にビデオコーデックを使用する] を [画面全体に使用] に設定していると、マルチモニターセッションが正しくレンダリングされないことがあります。この設定を、マルチモニターセッションで [可能であれば使用] に変更することをお勧めします。[RFHTMCRM-5523]

### 2105.5 の既知の問題

- 最初の文字の入力で、ワークスペースセッションのカーソル位置に正確に表示されないことがあります。[RFHTMCRM-4909]
- CJK の汎用クライアント IME ユーザーが Microsoft Excel のセルを入力のためにシングルクリックすると、候補ウィンドウおよび作成ウィンドウ UI がフォーカス位置に表示されない場合があります。この問題を回避するには、セルをダブルクリックします。[RFHTMCRM-5185]

### 古いドキュメント

保守終了 (EOL) に達した製品リリースについては、[古いドキュメント](#)を参照してください。

### 制限事項

- セッションからの切断: タブを閉じるか、または Web ブラウザーを閉じてセッションを切断したときに、セッションが切断されたことがサーバーに通知されないことがあります。その結果、サーバー上のセッションは、デフォルトの 180 秒間、または構成されたセッション画面の保持のタイムアウト時間の間、アクティブのままになります。

推奨事項: ツールバーオプションを使用して、セッションを切断することをお勧めします。

- Citrix Studio で [Use Hardware Encoding for Video Codec] が [Enabled] に設定されている場合、Intel vGPU VDA を使用したセッション中に画面が緑色で表示されることがあります。[RFHTMCRM-5521]

- サーバーは、Graphics-Thinwire YUV444 設定が構成されている場合でも、YUV420 にフォールバックします。グラフィックが豊富なアプリケーションは、YUV420 の範囲によって制限を受けます。[RFHTMCRM-5520]
- セッションで、**Command+R** キーを送信しようとする、セッションへのリモート接続ではなくセッションの切断を求められます。この問題は、Safari ブラウザーアプリケーションを使用している場合に発生します。[RFHTMCRM-6415]
- Microsoft Teams の最適化を使用して画面を共有すると、画面共有を示す赤い境界線が表示されません。[RFHTMCRM-6360]
- Android または iOS オペレーティングシステム上のあらゆるブラウザで、HTML5 向け Citrix Workspace アプリは、外付けのマウスとキーボードの使用をサポートしません。[RFHTMCRM-6623]
- ブラウザーまたはブラウザのタブを閉じてセッションを切断すると、サーバー (Delivery Controller) でセッションの状態がしばらくアクティブのままになる場合があります。この問題は断続的に発生します。  
この問題を回避するには、セッションツールバーのセカンダリメニューから [切断] オプションを使用します。[RFHTMCRM-5457]
- タッチパッドからの横スクロールはサポートされていません。
- セッション中に、複数のオーディオデバイスを接続すると、音声は 1 つのデバイスからしか聞こえません。他のオーディオデバイスに切り替えることができません。[HDX-49312]
- セッション中に、ツールバーから切断してから以前のセッションに再接続すると、音声は聞こえない場合があります。[HDX-49313]
- セッション間で異なるデバイス ID を持つデバイスから Citrix Virtual Apps and Desktops に匿名ログインすると、ユーザーまたはデバイスのライセンス数が不正確になる場合があります。
- セッション中に、Microsoft Excel を開きキーボードを使用してカットして貼り付ける操作を実行すると、カット操作後にセル内のテキストが消去されません。[RFHTMCRM-10426]
- クライアントドライブマッピング機能を使用してローカルデバイスから VDA にファイルを転送したり、その逆にファイルを転送したりすると、データが破損する可能性があります。[RFHTMCRM-11474]
- Citrix Workspace アプリを使用してデスクトップセッションを開始すると、UI をブロックする緑色の領域が表示画面が現れます。この問題は、起動したデスクトップ内でアプリケーションウィンドウを移動すると発生する可能性があります。[CVADHELP-23377]

### 廃止

廃止済みの項目については、「[廃止済み](#)」ページを参照してください。

### 古いドキュメント

保守終了 (EOL) に達した製品リリースについては、[古いドキュメント](#)を参照してください。

## Technical Preview の機能

October 10, 2023

Technical Preview の機能は、非実稼働環境または制限のある稼働環境で使用でき、お客様がフィードバックを共有する機会を提供します。Technical Preview の機能のサポートは行っていませんが、改善に関するフィードバックをお待ちしております。重要度と重大度により、フィードバックに対応する場合があります。

### 注

現時点では Technical Preview の機能はありません。

## インストールの前提条件

February 14, 2024

### システム要件と互換性

このトピックでは、Citrix Workspace アプリでサポートされる Citrix 製品のバージョンと、ユーザーが仮想デスクトップとアプリケーションにアクセスするための要件について説明します。

すべてのコンピューターが、インストールされているオペレーティングシステムの最小ハードウェア要件を満たしていることを前提としています。

### 要件

HTML5 向け Citrix Workspace アプリを使ってデスクトップおよびアプリケーションにアクセスするには、Web ブラウザーおよびオペレーティングシステムを実行するデバイスが必要です。すべてのブラウザーは、最新バージョンのみサポートされています。セキュリティで保護された接続を確立するには、HTTPS ベースのストアから Citrix Workspace アプリセッションを開きます。HTTP ベースのストアを使用すると、一部の機能が動作しない可能性があります。アドレスバーの南京錠のアイコンを確認してください。ロックされている場合、接続は安全です。安全でない場合は、証明書を更新します。

### Web ブラウザー

- Apple Safari
- Google Chrome
- Microsoft Edge Chromium
- Mozilla Firefox



注:

Microsoft および Citrix Workspace アプリでは、Internet Explorer のサポートが終了しました。

### オペレーティングシステム

- Windows 11
- Windows 10
- Windows Phone 10
- Windows 8.1
- Windows 8 Pro および Enterprise (32 ビット版および 64 ビット版)
- Windows 7 Service Pack 1 (32 ビット版および 64 ビット版)
- Windows Server 2008 R2
- Windows Server 2012 R2
- Windows Server 2016
- macOS X 10.8 以降
- ChromeOS (最新バージョン)
- iOS (最新バージョン)
- Android (最新バージョン)

### Microsoft インターネットインフォメーションサービス (IIS) のセキュリティ強化

StoreFront を IIS 構成で構成するには、以下を参照してください:

- [ファイル拡張子](#)。
- [動詞](#)。

### WebAssembly ファイル Citrix Workspace アプリを最新バージョンにアップグレードした後:

- [バージョン情報] ダイアログボックスに、古いバージョンの 21.1.0.5 (2101) のアプリが表示されることがあります。  
または
- セッションの起動に失敗することがあります。

この問題は、WebAssembly (.wasm) ファイルがネットワークでブロックされている場合に発生します。解決するには、.wasm ファイルの MIME タイプが `application/wasm` であり、ネットワークで許可されていることを確認してください。

### サポートに関するマトリックス

HTML5 向け Citrix Workspace アプリは StoreFront の次のバージョンを介したデスクトップおよびアプリケーションへのアクセスをサポートします。ストアには、Citrix Receiver for Web サイトを介してアクセスする必要があります。Citrix では以下をお勧めします：

- StoreFront 2.5 以降
- HTML5 向け Citrix Workspace アプリは StoreFront 2.5 以降のすべてのバージョンからアップグレードできます。

ユーザーが Citrix Gateway を介して接続する場合、以下を介して配信されるデスクトップおよびアプリケーションに Citrix Workspace アプリでアクセスできます：

- Citrix Virtual Apps and Desktops および Citrix DaaS（旧称 Citrix Virtual Apps and Desktops サービス）の全バージョン
- デスクトップとアプリケーションをサポートする StoreFront。

Citrix Gateway を使用せず StoreFront を介して直接接続する場合、以下の製品バージョンを介してデスクトップやアプリケーションに Citrix Workspace アプリでアクセスできます：

- XenDesktop 7.6 以降

#### 注：

HTML5 向け Citrix Workspace アプリは、管理者が StoreFront サーバーにインストールして、エンドユーザーがアクセスできるようにする必要があります。そのため、ビルドは Windows バイナリの形式になります。ただし、HTML5 ではクライアント側にインストールする必要はありません。

### 接続

実稼働環境では、Citrix は以下を推奨します：

- Citrix Receiver for Web サイトとユーザーのデバイス間の通信を Citrix Gateway および HTTPS で保護する。また、SSL が有効な VDA が必要です。

詳しくは、Knowledge Center の記事「[SSL configuration on VDA](#)」を参照してください

- HTML5 向け Citrix Workspace アプリが展開される環境においては、キーサイズが 1024 ビット以上の SSL 証明書を使用する。

Citrix Workspace アプリを次のバージョンの Citrix Gateway と組み合わせると、ユーザーはパブリックネットワークからデスクトップおよびアプリケーションにアクセスできます。

- NetScaler Gateway 10.5 以降

圧縮とプリンター圧縮を無効にし、HDX Insight 分析で CloudBridge Insight Center に表示される CloudBridge が、HTML5 向け Citrix Workspace アプリでサポートされるようになりました。

- CloudBridge 7.4 以降

注:

SSL を有効にした VDA と HTML5 向け Citrix Workspace アプリとの接続に問題がある場合、「[VDA 上の TLS 設定](#)」で指定された暗号の組み合わせを構成します。

## インストール

April 5, 2024

### StoreFront

#### Citrix Receiver

for Web サイトで HTML5 向け Citrix Workspace アプリを有効にします。StoreFront ストアは、HTML5 ユーザー向け Citrix Workspace アプリ用のデスクトップとアプリケーションを提供します。

重要:

複数サーバーの StoreFront 展開環境では、同時に複数のサーバー上でサーバーグループの構成を変更しないでください。展開内のほかのサーバー上で Citrix StoreFront 管理コンソールを同時に実行していないことを確認してください。変更が完了したら、構成の変更をサーバーグループに反映させて、展開内のほかのサーバーを更新します。

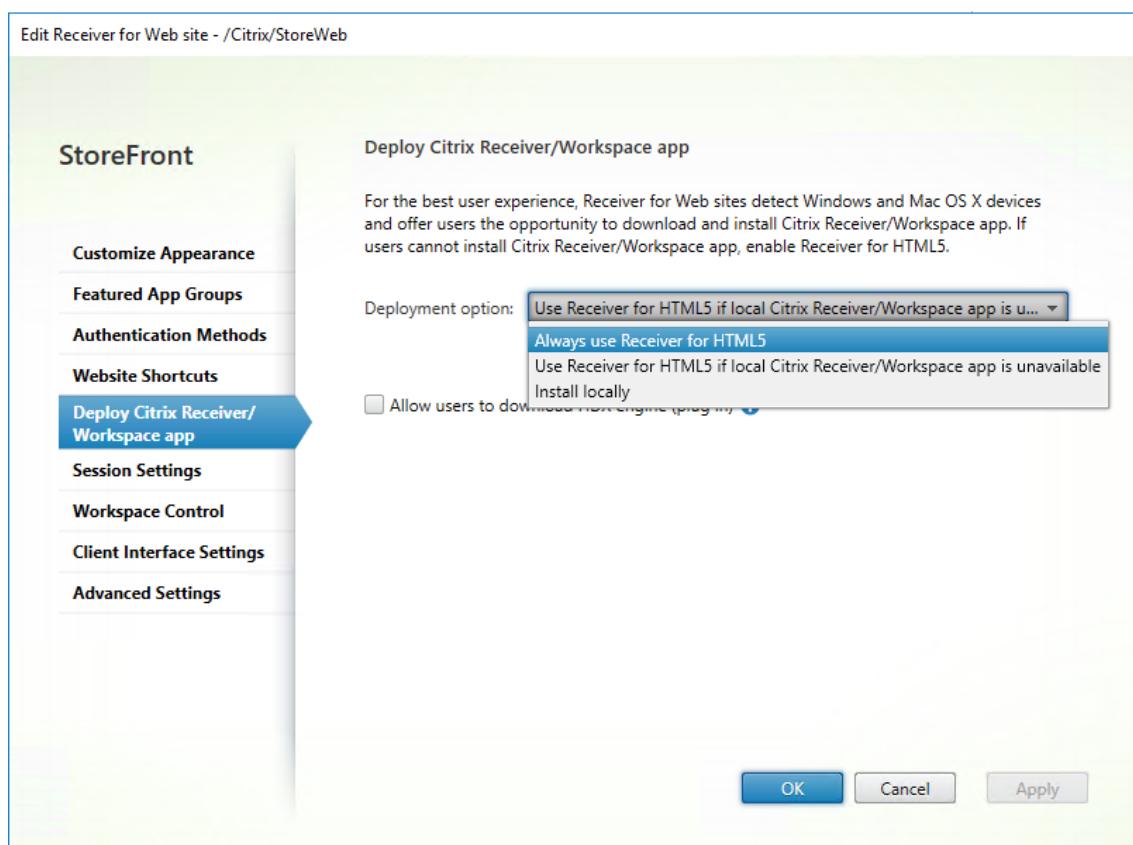
1. 環境に StoreFront を展開して、HTML5 向け Citrix Workspace アプリユーザーに提供するデスクトップとアプリケーションを集約するストアを作成します。

新しいストアを作成すると、Citrix Receiver for Web サイトが自動的に作成されます。StoreFront ストアの作成について詳しくは、「[ストアの作成または削除](#)」を参照してください。

2. Citrix StoreFront 管理コンソールで、次の手順を実行します:

- Windows の [スタート] 画面または [アプリ] 画面で、[**Citrix StoreFront**] タイルをクリックします。
- 左ペインで [ストア] を選択し、[操作] ペインで [**Receiver for Web** サイトの管理] > [構成] の順にクリックします。
- [**Citrix Receiver/Citrix Workspace** アプリの展開] を選択します。

3. いずれかのオプションを選択して、HTML5 向け Citrix Workspace アプリを有効にします。



- ローカルにインストールされた Citrix Workspace アプリ（Windows 向け Citrix Workspace アプリなど）を使ってサイトからデスクトップやアプリケーションにアクセスするには、[ローカルの **Citrix Receiver/Citrix Workspace** アプリが使用できない場合、**HTML5** 向けの **Citrix Receiver/Workspace** アプリを使用する] オプションを選択します。

Citrix Workspace アプリをインストールしていない場合は、HTML5 向け Citrix Workspace アプリを使用してサイトからデスクトップとアプリケーションにアクセスできます。

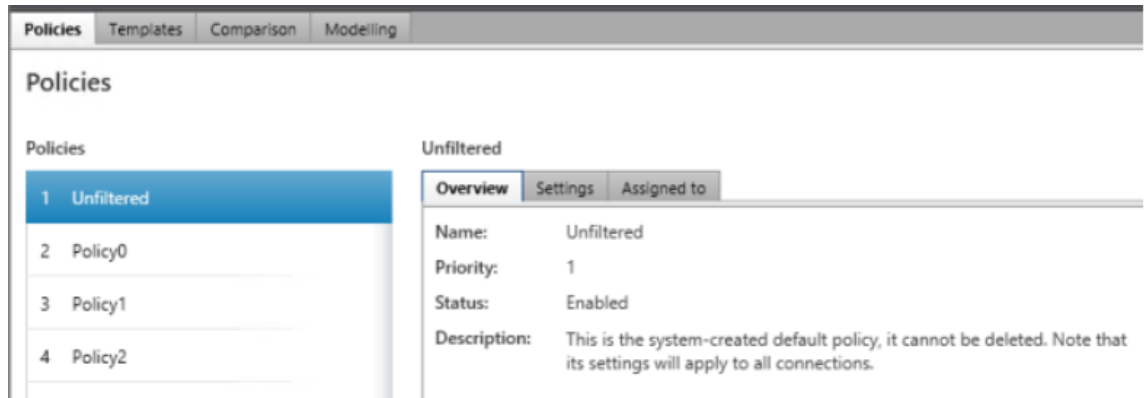
HTML5 向け Citrix Workspace アプリをインストールしていない Windows および macOS のユーザーがサイトにサインインするたびに、Citrix Workspace アプリをインストールすることを求めるメッセージが表示されます。Citrix Workspace アプリをインストールできない場合は、HTML5 向け Citrix Workspace アプリを使用できます。

[ローカルの **Citrix Receiver/Citrix Workspace** アプリが使用できない場合、**Receiver for HTML5** を使用する] を選択すると、[**Citrix Receiver** の変更] オプションが表示されます。このオプションを使用すると、起動するアプリケーションまたはデスクトップに基づいて、簡易バージョンのまたはローカルの Citrix Workspace アプリに動的に変更できます。[プロファイル] オプションにも [**Citrix Receiver** の変更] オプションが表示されます。

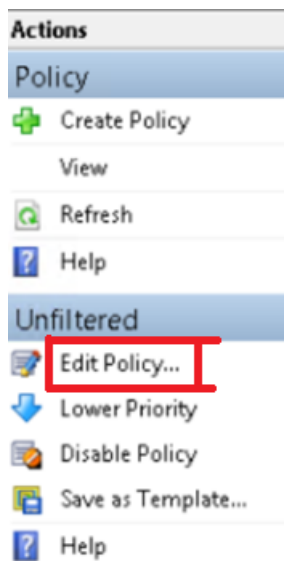
- HTML5 向け Citrix Workspace アプリを使って Citrix Virtual Apps and Desktops からアプリケーションまたはデスクトップにアクセスするには、[常に **Receiver for HTML5** を使用] を選択します。

## WebSocket

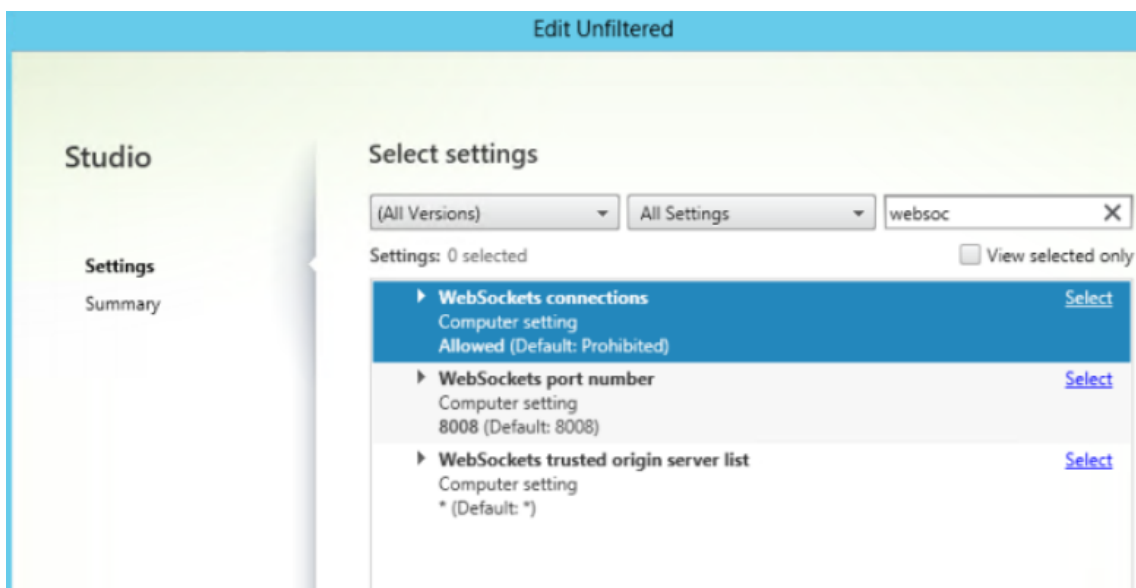
1. グループポリシー管理コンソールまたは Citrix Studio に移動して、[ポリシー] を選択してポリシーを構成します。
2. 中央ペインの [ポリシー] で既存のポリシーを変更するか、ポリシーを作成します。



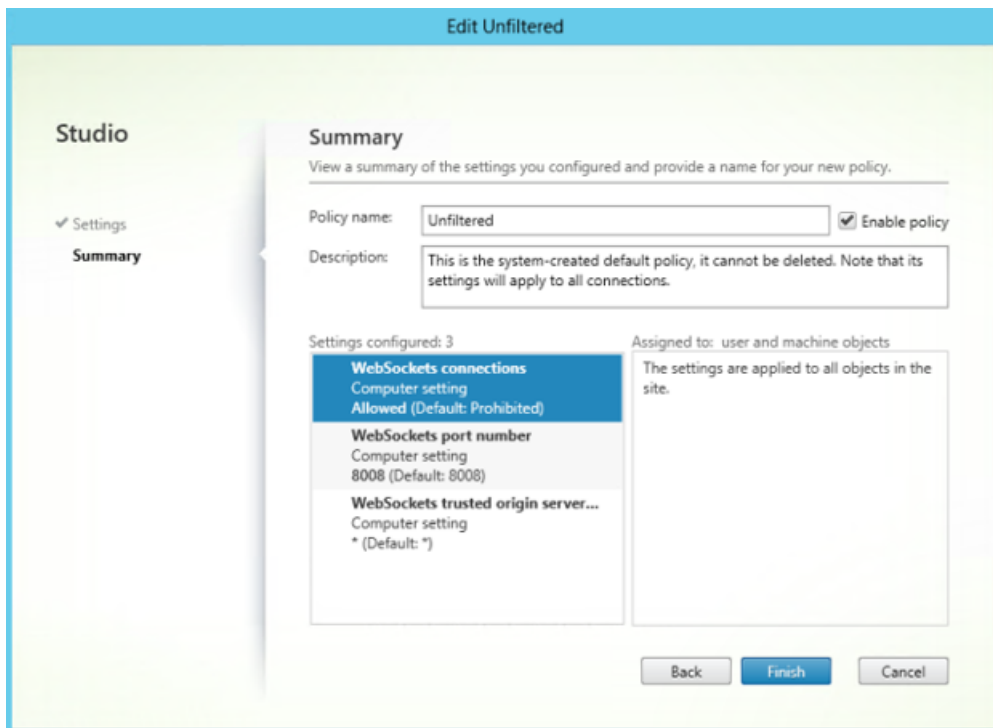
3. 既存のポリシーを編集するには、右ペインの [操作] で [ポリシーの編集] を選択します。



4. [Unfiltered の編集] ウィンドウが開きます。「websoc」と入力して **Enter** キーを押します。フィルター後の一覧に、3つの WebSocket 関連のポリシー設定が表示されます。



5. 各ポリシーで [選択] をクリックし、[許可] と表示された設定を選択し、[OK] をクリックします。
6. デフォルト値をそのまま使用し、[OK] を選択し、[次へ] をクリックします。
7. ポリシー名を入力するか、デフォルト値をそのまま使用します。[ポリシーの有効化] がオンになっていることを確認して、[完了] をクリックします。

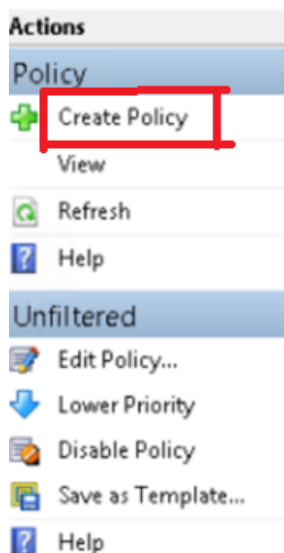


注:

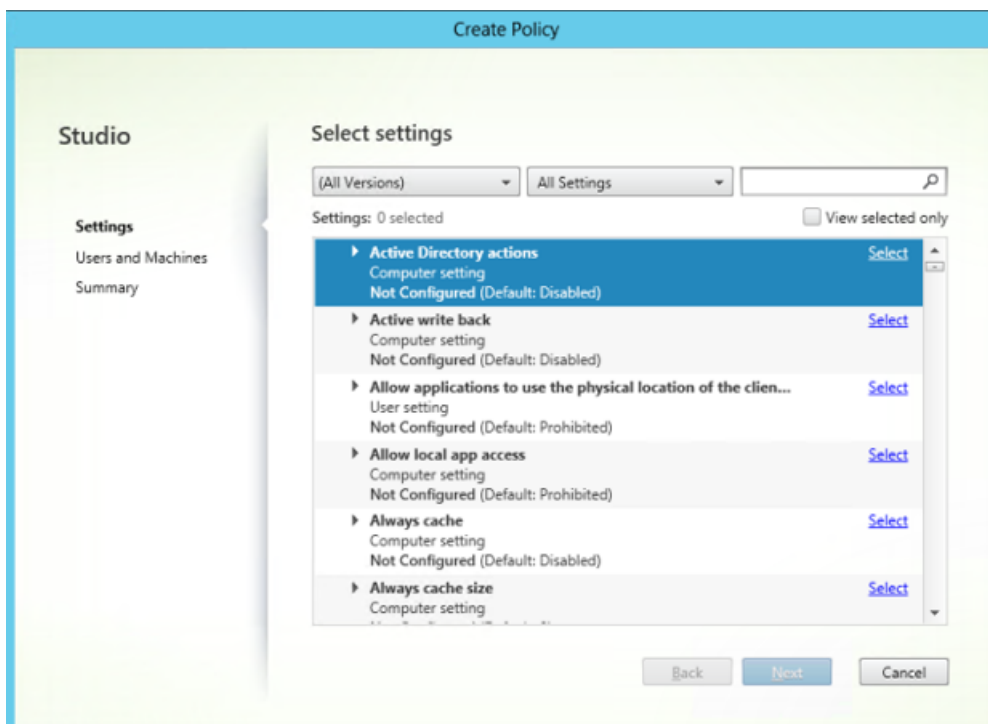
既存のデフォルト (Unfiltered) ポリシーを変更すると、ユーザーおよびマシンオブジェクトにポリシー

ーを割り当てるオプションが使用できません。そのため、既存のデフォルト以外のポリシーを変更するか、ポリシーを作成することをお勧めします。

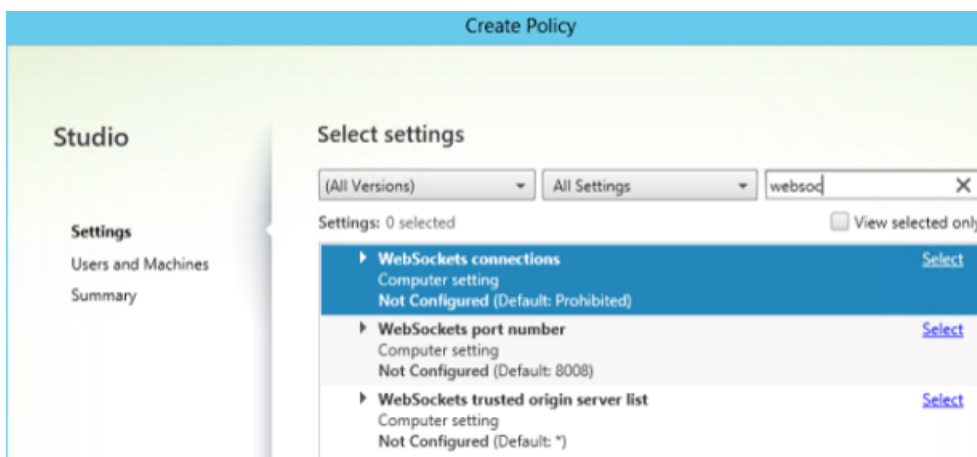
8. Citrix Studio でポリシーを作成するには、[操作] で [ポリシー] を選択し、[ポリシーの作成] をクリックします。[ポリシーの作成] ウィンドウが開きます。



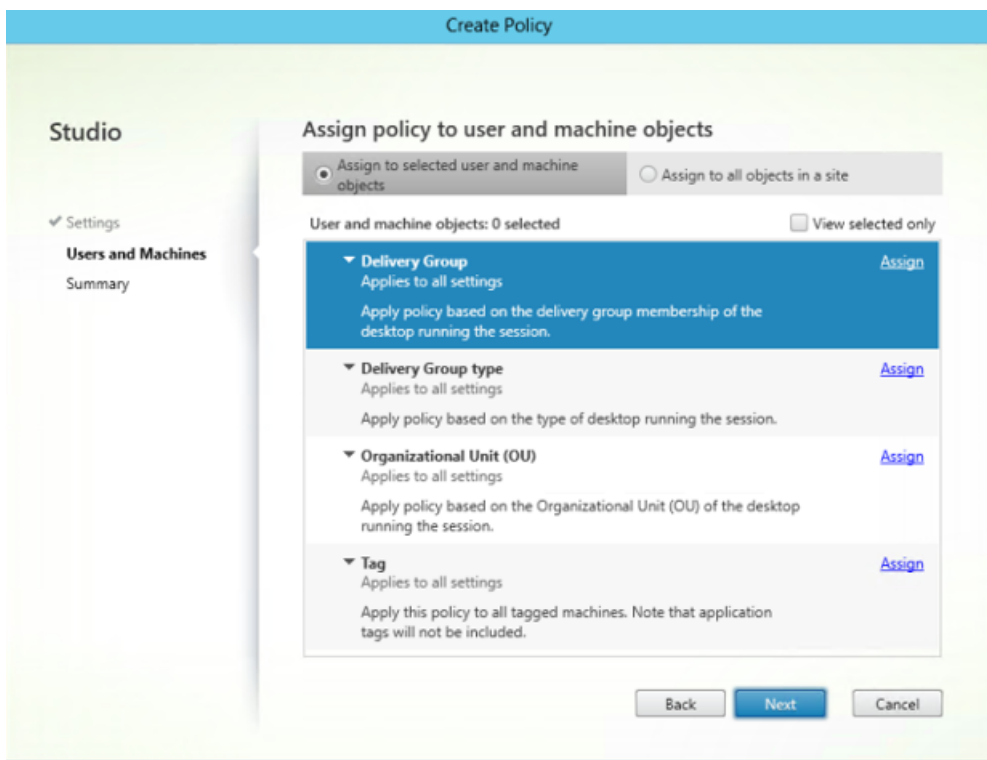
9. 検索ボックスに「**websoc**」と入力して **Enter** キーを押します。検索結果に、3つの WebSocket 関連のポリシー設定が表示されます。



10. 各ポリシーで [選択] をクリックして、[次へ] をクリックします。

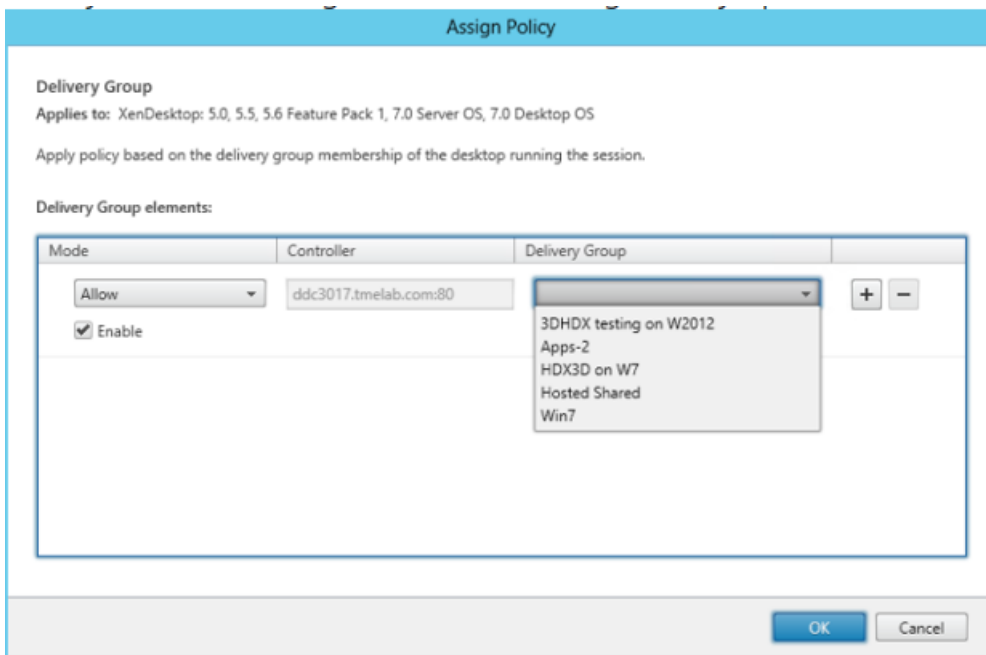


11. デリバリーグループに基づいて権限を割り当てます。[デリバリーグループ] を選択して、[割り当て] をクリックします。

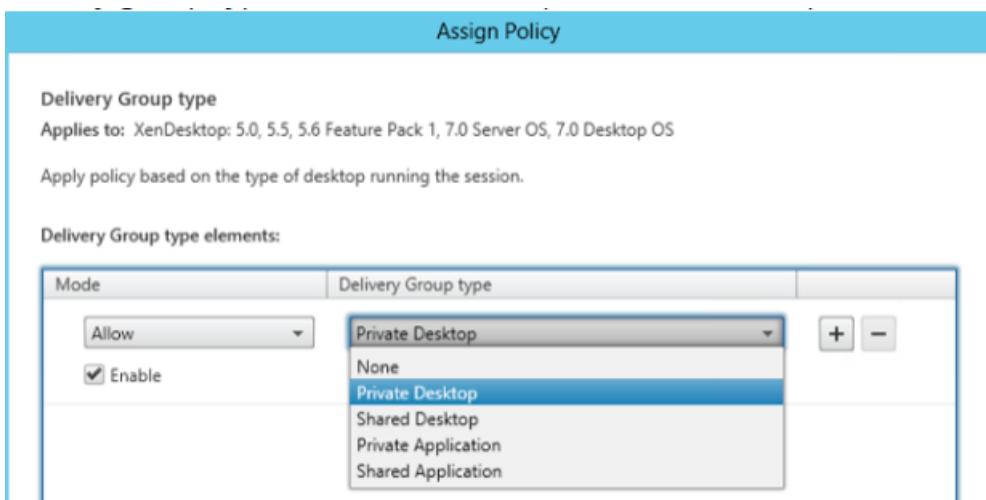


12. [ポリシーの割り当て] ウィンドウが表示されます。一覧から適切なデリバリーグループを選択して、[OK] をクリックします。

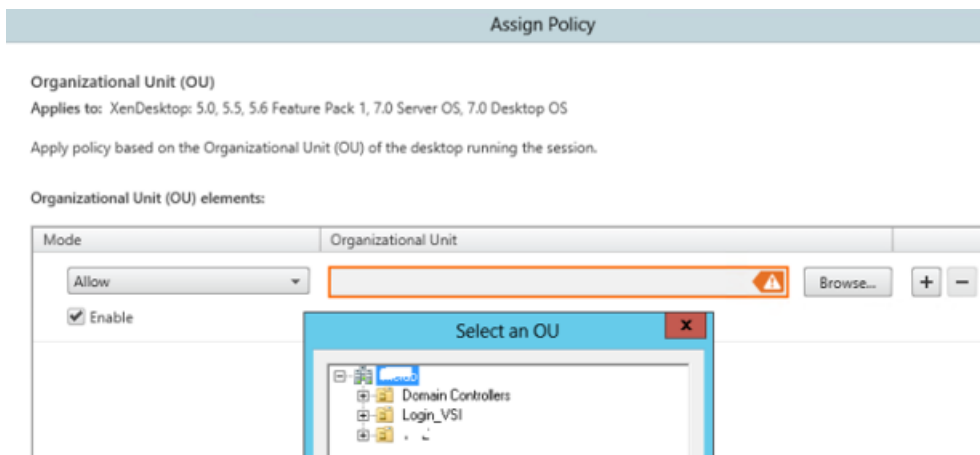




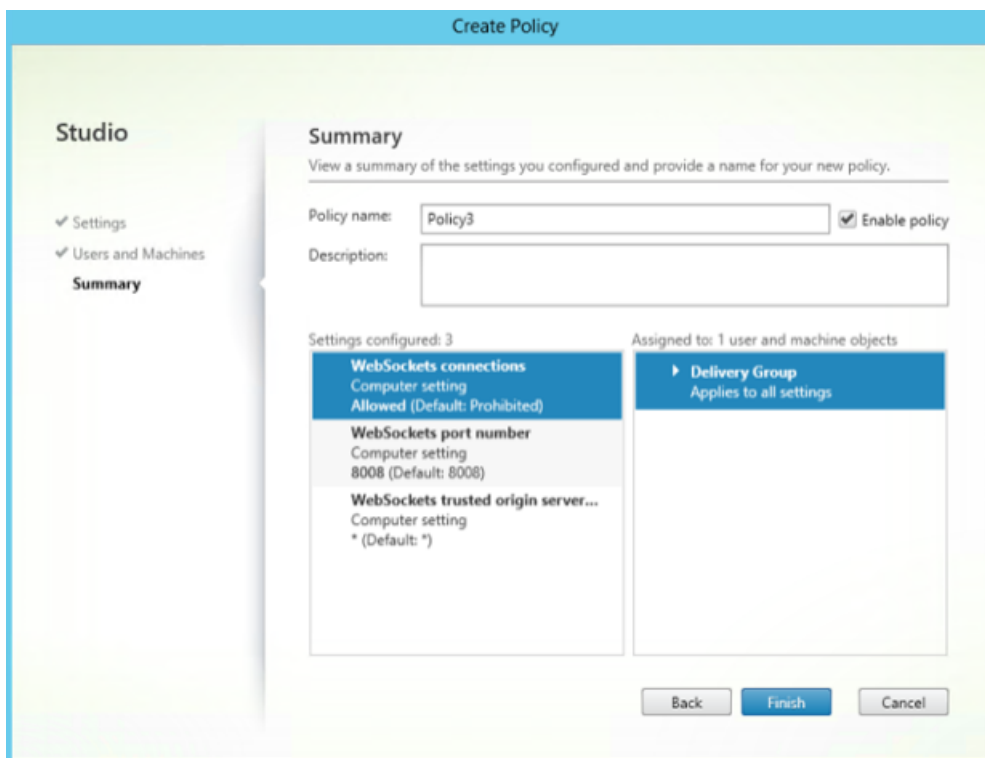
13. 適切なデリバリーグループの種類を選択して、[割り当て] をクリックします。一覧からデリバリーグループを選択できます。



14. [組織単位 (OU)] を選択した場合、お使いの Active Directory 環境から特定の OU を選択できます。



15. [概要] ウィンドウで、ポリシー設定を確認して [完了] をクリックします。



16. Citrix Virtual Apps または Citrix Virtual Apps and Desktops 上で WebSocket 接続を許可したときに使用されたポートを変更した場合、次の手順を実行します。

Citrix Workspace アプリ for Web サイトの WebSocket ポートを変更するには:

- テキストエディターを使用して、Citrix Receiver for Web サイトの web.config ファイルを開きます。このファイルは、C:\inetpub\wwwroot\Citrix\storenameWeb ディレクトリにあります。**storename** はストアの作成時に指定した名前です。
- ファイル内で次の要素を検索します。

```
<html5 ... preferences="" ... />
```

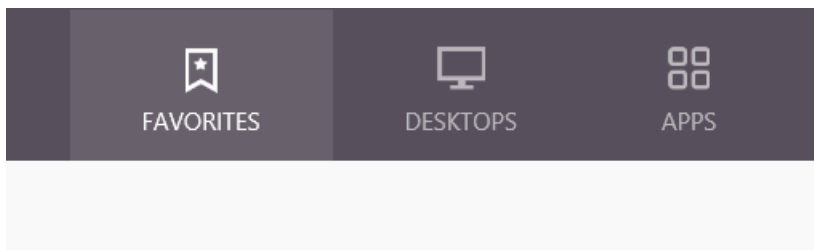
- c) preferences 属性の値を **wsPort:portnumber;** に設定します。ここで **portnumber** は、ポリシーで構成したポートです。

**Web** ブラウザーによりデスクトップとアプリケーションにアクセスして **HTML5** を検証するには

1. URL (<http://<XDControllerIPaddressorFQDN>/Citrix/StoreWeb>) で、デリバリーグループの権限（ユーザー/グループ）に基づくドメイン資格情報を使用して StoreFront にログインします。[ローカルの **Citrix Receiver/Citrix Workspace** アプリが使用できない場合、**Receiver for HTML5** を使用する] を選択すると、ページが表示されます。HTML5 にアクセスするには、簡易バージョンを使用してください。

次の 2 つのオプションが使用できます：

- Citrix Receiver のプラグイン
  - Receiver for HTML5
2. [ログイン] をクリックします。
  3. 正しいユーザー名とパスワードを入力します。
  4. アクセス可能なすべてのアプリとデスクトップがこのページに表示されます。HTML5 ブラウザーを使ってデスクトップやアプリケーションを起動できます。デスクトップとアプリケーションは新しいタブで起動されます。



ログページに移動して **Citrix Receiver for HTML5** ログを表示するには

1. Citrix Receiver for Web サイトにログインします。
  - HTML5 向け Citrix Workspace アプリ 1908 以降の場合、新しいタブを開いて、**siteurl/Clients/HTML5Client/src/SessionWindow.html#engineType=log** に移動します。ここで、**siteurl** は Citrix Receiver for Web サイトの URL (<http://server.domain/Citrix/StoreWeb>) です。
  - Citrix Workspace アプリ 1907 以前の場合、新しいタブを開いて、**siteurl/Clients/HTML5Client/src/ViewLog.html** に移動します。ここで、**siteurl** は Citrix Receiver for Web サイトの URL (<http://server.domain/Citrix/StoreWeb>) です。

## Citrix Virtual Apps and Desktops および Citrix DaaS への直接接続

HTML5 向け Citrix Workspace アプリは、WebSocket プロトコルを使って仮想デスクトップやホストされるアプリケーションにアクセスします。デフォルトでは、Citrix Virtual Apps and Desktops および Citrix DaaS (旧称 Citrix Virtual Apps and Desktops サービス) での WebSocket 接続は禁止されています。

Citrix Gateway を介した接続を使用せずにローカルネットワークからリソースにユーザーがアクセスできるようにするには、Citrix Virtual Apps and Desktops および Citrix DaaS で WebSocket 接続を許可する必要があります。

HTTP プロファイルの作成については、「HTTP 構成」を参照してください。

### 警告:

レジストリエディターの使用を誤ると、深刻な問題が発生する可能性があります。オペレーティングシステムの再インストールが必要になる場合もあります。レジストリエディターの誤用による障害に対して、Citrix は一切責任を負いません。レジストリエディターは、お客様の責任と判断の範囲でご使用ください。また、レジストリファイルのバックアップを作成してから、レジストリを編集してください。

### 注:

ユーザーデバイスと Citrix Virtual Apps and Desktops や Citrix DaaS、または Citrix Virtual Apps サーバーとの通信を SecureICA で暗号化している場合、HTML5 向け Citrix Workspace アプリでは基本レベルの暗号化のみサポートされます。他の暗号化レベルを使用すると、セッションは開始されません。

## Citrix Provisioning Services

Citrix Provisioning Services を使ってプロビジョニングされた (非永続の) マシンを展開するには、HTML5 向け Citrix Workspace アプリの接続を有効にするマシンカタログとデリバリーグループを作成します。構成した WebSocket ポリシーがマシンカタログに適用されていることを確認します。

WebSocket ポリシーを適用するにはマシンを再起動する必要があります。MCS (別個の ID ディスクがある) を使って展開した永続書き込みキャッシュファイルおよびマシンを使用するように構成した Citrix Provisioning Services ベースのマシンの場合、マシンの再起動時にポリシーは維持されます。ただし、一時書き込みキャッシュファイルを使用する Citrix Provisioning Services ベースのマシンカタログの場合、これらのポリシーを vDisk に適用する必要があります。そうしないと、ターゲットデバイスにこれらのポリシーを実装できません。

ポリシーが vDisk に適用されるよう、次の手順を実行してください。

1. Citrix Provisioning コンソールを使って、マシンカタログおよびデリバリーグループの一部であるターゲットデバイスをシャットダウンします。ターゲットデバイスのアクセスの種類を [実稼働] から [保守] に変更します。

詳しくは、「[ターゲットデバイス](#)」を参照してください。マシンカタログとデリバリーグループの一部であるターゲットデバイスを使用する必要があります。そうしないと、ポリシーは適用されません。

2. vDisk のバージョンを作成し、[アクセス] を [保守] に設定します。詳しくは、「[vDisk イメージの手動更新](#)」を参照してください。
3. 保守ターゲットデバイスを起動し、ブートメニューから保守 vDisk バージョンを選択します。次のキーがレジストリに追加されるか確認します。
  - a) HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Policies\Citrix\ICAPolicies\AcceptWebSocketsConnections
  - b) HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Policies\Citrix\WebSocketsPort
  - c) HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Policies\Citrix\WSTrustedOriginServerList
4. ターゲットデバイスをシャットダウンし、ターゲットデバイスのアクセスの種類を [実稼働] に戻して、新しい vDisk のバージョンを実稼働にします。次に、ターゲットデバイスを起動して、現在既存の vDisk から実行しているそのほかのターゲットデバイスを再起動します。

vDisk のバージョン管理を使用しない場合は、ポリシーを基本 vDisk イメージに適用できます。ポリシーを適用するには、vDisk を使用するすべてのターゲットデバイスをシャットダウンします。vDisk をプライベートイメージモードにしてから、ターゲットデバイスを起動してイメージを更新します。

### StoreFront で HTML5 向け Citrix Workspace アプリをアップグレードするには

新しい Citrix Workspace アプリにアップグレードするには、次の手順を実行します：

- HTML5 向け Citrix Workspace アプリの現在のバージョンを確認します。
- CitrixHTML5Client-x64.exe をダウンロードします。
- CitrixHTML5Client-x64.exe を StoreFront マシンにコピーします。
- CitrixHTML5Client-x64.exe を管理者としてインストールして、HTML5 向け Citrix Workspace アプリを更新します。
- StoreFront コンソールを更新します。

## 開始

January 23, 2024

## セットアップ

HTML5 向け Citrix Workspace アプリは、Citrix Receiver for Web サイトに統合されます。仮想デスクトップやホストされるアプリケーションにアクセスするには、サポートされるオペレーティングシステム上で動作する互換性がある Web ブラウザーで Citrix Receiver for Web サイトを開きます。

HTML5 向け Citrix Workspace アプリでのユーザーエクスペリエンスは以下のとおりです：

- Citrix Workspace アプリを常に使用するようサイトを構成しなかった場合、そのサイトは Citrix Workspace アプリがローカルにインストールされているかどうかを判断しようとします。インストールは、Windows および macOS を実行するデバイスで可能です。Citrix Workspace アプリが検出されない場合は、プラットフォームに適した Citrix Workspace アプリをダウンロードしてインストールするためのページが開きます。Citrix Workspace アプリをインストールできないユーザーについては、Citrix Receiver for Web サイトにログオンするたびにこのページが開きます。Citrix Workspace アプリをローカルにインストール済みのユーザーは、同じバージョンを使用してサイトのリソースにアクセスする必要があります。ユーザーには、HTML5 向け Citrix Workspace アプリを使用するオプションはありません。

管理者が Citrix Receiver for Web サイトが Citrix Workspace アプリを常に使用するよう構成したサイトでは、ユーザーは Citrix Workspace アプリを使用してサイトのリソースにアクセスする必要があります。ユーザーが Citrix Workspace アプリをローカルにインストールしたかどうかは関係ありません。

- Citrix Workspace アプリでデスクトップやアプリケーションにアクセスすると、ブラウザーの新しいタブまたはウィンドウが開き、そこでリソースが起動します。この動作は、ユーザーのブラウザー設定によって異なります。Citrix Receiver for Web サイトと同じタブでリソースが常に起動するように Citrix Workspace アプリを構成することもできます。
- ユーザーが追加でアプリケーションを起動すると、HTML5 向け Citrix Workspace アプリは、セッションを作成する前に既存のセッション内でアプリケーションを開始できるかどうかをチェックします。このチェックにより、ユーザーは単一の接続で多くのアプリケーションにアクセスできるようになり、利用可能なリソースをより効率的に使用できます。
- HTML5 向け Citrix Workspace アプリは、かつて挟まれたアプリケーションおよびデスクトップタイトルの表示 (VDA(1) や VDA(2) など) をサポートしています。この機能を有効にするには、StoreFront で **[Receiver for Web]** と同じタブでアプリケーションを起動する] を選択します。詳しくは、「[構成](#)」を参照してください。

## 構成

June 26, 2024

### フィーチャーフラグ管理

注：

- 機能フラグを適用すると、Citrix Workspace アプリの次回起動後に、フィーチャーフラグが更新されます。シークレットモードでも、次回起動後に更新が表示されます。

実稼働環境の Citrix Workspace アプリで問題が発生した場合、機能が出荷された後でも、影響を受ける機能を Citrix Workspace アプリで動的に無効にすることができます。無効化するには、フィーチャーフラグと、LaunchDarkly と呼ばれるサードパーティ製サービスを使用します。

ファイアウォールまたはプロキシが送信トラフィックをブロックしている場合を除いて、LaunchDarkly へのトラフィックを有効にするように構成する必要はありません。送信トラフィックがブロックされている場合、ポリシー要件に応じて、特定の URL または IP アドレス経由の LaunchDarkly へのトラフィックを有効にします。

現時点でクラウド環境の顧客は、HTML5 向け Citrix Workspace アプリをカスタマイズするために StoreFront にアクセスすることはできません。暫定的に、LaunchDarkly を使用して、ストアの URL に基づいて特定の顧客の機能をオンまたはオフにすることができます。

LaunchDarkly へのトラフィックと通信は、次の方法で有効化できます：

次の **URL** へのトラフィックを有効にする

- [events.launchdarkly.com](https://events.launchdarkly.com)
- [app.launchdarkly.com](https://app.launchdarkly.com)

**IP** アドレスの許可リストを作成する

IP アドレスの許可リストを作成する必要がある場合、現在のすべての IP アドレス範囲については、「[LaunchDarkly のパブリック IP 一覧](#)」を参照してください。この一覧を使用すると、インフラストラクチャの更新に合わせてファイアウォールの構成が自動的に更新されます。インフラストラクチャの変更の状態について詳しくは、[LaunchDarkly Status](#)のページを参照してください。

**LaunchDarkly** サービスを無効にするプロビジョニング

オンプレミスストアとクラウドストアの両方で LaunchDarkly サービスを無効にすることができます。

クラウド環境では、管理者は Global App Configuration Service で **enableLaunchDarkly** 属性を **false** に設定することにより、LaunchDarkly サービスを無効にすることができます。

詳しくは、[Global App Configuration Service](#)のドキュメントを参照してください。

オンプレミス展開で LaunchDarkly サービスを無効にするには、次の手順を実行します：

1. HTML5Client フォルダの **configuration.js** ファイルに移動します。
2. **enableLaunchDarkly** 属性を追加し、この属性を **false** に設定します。

```
1  'thirdPartyServices' : {
2
3      'enableLaunchDarkly' : false
4  }
```

```
5 ,  
6 <!--NeedCopy-->
```

3. [Save] をクリックします。

メモ:

- LaunchDarkly サービスを無効にするオプションは、バージョン 2208 以降の HTML5 向け Citrix Workspace アプリに適用されます。
- デフォルトでは、**enableLaunchDarkly** 属性が存在しない場合、LaunchDarkly サービスが有効になります。

### Global App Configuration Service

管理者は、Global App Configuration Service を使用して Citrix Workspace アプリで起動されたセッションのユーザー設定をカスタマイズできます。管理者は、オンプレミスおよび Workspace（クラウド）展開のユーザー設定をカスタマイズできます。

以前は、管理者はこの目的でのみ **configuration.js** を使用でき、それを StoreFront ユーザーにのみ適用可能でした。

#### 機能の制限

- ブラウザーに Adblock 拡張機能をインストールしていると、Global App Config Service 設定が正常に機能しないことがあります。[CVADHELP-23003]

#### 構成

Citrix Workspace 向けの Global App Configuration Service を使用すると、Citrix 管理者は、一元管理されたサービスによって Workspace サービスの URL と Workspace アプリの設定を配信できます。

詳しくは、[Global App Configuration Service](#)のドキュメントを参照してください。

メモ:

- この機能は、ワークスペースおよび HTTPS ベースのストアでのみ使用できます。
- Global App Configuration Service が機能するためには、ユーザーが URL にアクセスできることを確認してください。

#### クリップボード

この機能が導入される前は、Citrix Workspace アプリではローカルアプリケーションからそのほかのアプリケーションへの形式を選択して貼り付け機能を使った HTML 形式テキストのコピーや貼り付けがサポートされていません



でした。そのため、ターゲットのアプリ（この上記の例では Microsoft Excel）には HTML 形式の特性が含まれていませんでした。

HTML5 向け Citrix Workspace アプリは、クライアントとセッション間でプレーンテキストに加えて、HTML 形式をサポートします。これは、Office アプリやブラウザで有用です。強化されたクリップボードは Chrome および Safari ブラウザー上でのみサポートされます。この機能では、HTML コンテンツがコピーされ、形式が保持されます。Chrome でリンクをコピーすると、<img> タグが HTML 形式で追加され、テキストだけでなく画像も適切にコピーできます。この HTML 形式の機能によりプレーンテキスト以外にもコピーできますが、すべてのアプリケーションで機能するわけではありません。

詳しくは、Citrix Virtual Apps and Desktops ドキュメントの「[クライアントクリップボードリダイレクト](#)」を参照してください。

### 強化されたクリップボード機能

セッションとエンドユーザーのデバイスとの間でテキストをコピーして貼り付けることができます。この操作は、Windows、Mac、または Chrome OS 上で、ブラウザベースの HTML5 向け Citrix Workspace アプリを使用しており、仮想デスクトップがホストする複数のアプリケーションまたはデスクトップを起動しているときに可能です。

この機能により、**Ctrl+C** および **Ctrl+V** (Windows または Chrome オペレーティングシステム)、および **Cmd+C** および **Cmd+V** (Mac オペレーティングシステム) のホットキーを使用して、コピー/貼り付けを実行することができます。

この機能はデフォルトで有効になっています。

Firefox および Edge ブラウザーの場合、**Ctrl+C** キーを押してから [確認] をクリックしてリモートセッションからローカルデバイスにテキストをコピーします。

ツールバーの [基本設定] で [コピーの確認ダイアログを無効にする] チェックボックスをオンにして、コピーの確認ダイアログを無効にします。オプションを再度有効にするには、チェックボックスをオフにします。

強化されたクリップボード機能を無効にするには

この機能を無効にするには、**HTML5Client** フォルダー (C:\Program Files\Citrix\Receiver StoreFront\HTML5Client) 内にある **configuration.js** ファイルを編集し、**directClipboard** の値を **false** に設定します。

制限事項:

- コピー/貼り付けができるのは HTML、プレーンテキスト、画像のみで、ファイルはできません。
- 大容量データをサポートしません。
- **Ctrl** キーが押された状態で固定されることがあります。この問題は、右の **Ctrl** キーを長く押し続けてからを **C** を押してテキストをコピーすると発生します。回避方法としては、右の **Ctrl** キーを複数回クリックします。

- Google Chrome、Safari、Edge、および Firefox ブラウザーを使用しているときにテキストをコピーする場合、[コピー] ダイアログボックスでもう一度クリックを求められることがあります。
- **Ctrl+c** または **CMD+C** と **Ctrl+v** または **CMD+v** キーを使用して、コピーと貼り付けを行います。[編集] メニューまたは右クリックメニューのオプションを使ってテキストをコピーする場合、確認ダイアログボックスでもう一度クリックを求められることがあります。

画像クリップのコピーのサポート 標準のキーボードショートカットを使用して、ローカルデバイスと仮想デスクトップおよびアプリセッションの間で画像クリップをコピーして貼り付けることができるようになりました。以下のアプリケーションを使用する場合、標準のキーボードショートカットを使用してコピーと貼り付けができます：

- Microsoft Word
- Microsoft ペイント
- Adobe Photoshop

以前は、この機能は、Google Chrome ブラウザーと Microsoft Edge (Chromium) ブラウザーの HTTPS ストアで、テキストでのみ使用できました。この機能はテキストと画像でも利用できるようになりました。HTTPS ストアを使用した Google Chrome ブラウザーと Microsoft Edge (Chromium) ブラウザーに適用できます。

---

	サポートされているクリップボード操作
Google Chrome ブラウザーと Microsoft Edge (Chromium) ブラウザー、HTTPS ストア	画像クリップのコピーと貼り付けのサポート。テキストのコピーと貼り付けのサポート
Mozilla Firefox、HTTP ストア	テキストのコピーと貼り付けのサポート

---

### メモ：

- 通常は、セキュリティ上の理由から、HTTPS ベースのストアのみを使用することをお勧めします。
- ネットワーク帯域幅の制約により、2MB を超える画像クリップをコピーして貼り付けようとすると、セッションが応答しなくなる場合があります。
- Microsoft Windows OS および ChromeOS デバイスでは、コピーと貼り付けに Ctrl+C および Ctrl+V キーを使用します。Apple Mac デバイスでは、コピーと貼り付けに Command+C および Command+V キーを使用します。
- 右クリック機能は、仮想デスクトップおよびアプリセッションからローカルデバイスにコピーして貼り付ける場合にのみ機能します。ローカルデバイスから仮想デスクトップおよびアプリセッションにコピーして貼り付ける場合は機能しません。
- この機能は、BMP、PNG、JPEG、および GIF 形式でテスト済みです。

クリップボードが **HTML** 形式をサポート 仮想デスクトップとエンドポイントデバイス間のクリップボード操作に、HTML 形式を使用できるようになりました。HTML データをコピーすると、ソースコンテンツの形式がコピーされ、

データを貼り付けると、コピー先のコンテンツにその形式が適用されます。また、HTML 形式は外観が良くなります。

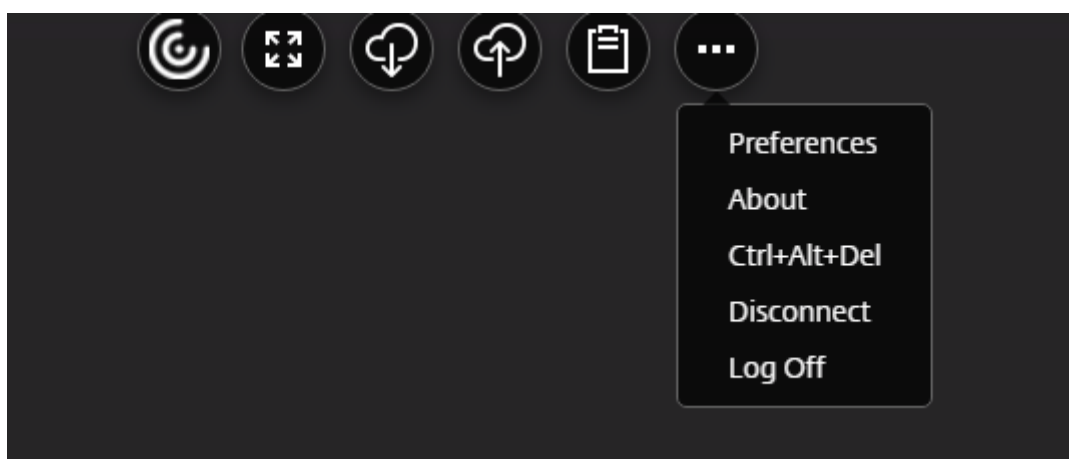
ポリシーの設定方法について詳しくは、Citrix Virtual Apps and Desktops ドキュメントの「[クライアントクリップボードに書き込みを許可する形式](#)」を参照してください。

### セッション共有

このセッション共有機能を使用するには、アプリケーションが同じマシン上でホストされており、シームレスウィンドウモードで構成されている必要があります。ウィンドウのサイズ、色深度、暗号化などのパラメーター設定を同じにしてください。ホストされているアプリケーションを使用できる場合は、デフォルトでセッション共有が有効になっています。

アプリケーションをホストするマシン上に App Switcher がインストールされている場合は、ウィンドウ下部にタスクバーが表示されます。タスクバーには、セッションで現在実行中のアプリケーションがすべて表示され、ユーザーはアプリケーション間を切り替えることができます。ユーザーはタスクバーを自動的に非表示にしたり、アイコンのサイズを小さくしてタスクバーの領域を最小化したりできます。

Web ブラウザーのタブには、HTML5 向け Citrix Workspace アプリを操作するためのフリーツールバーが表示されます（下図）。クリップボードボタンを使用すると、ユーザーデバイス上のローカルクリップボードとブラウザー内に表示されているデスクトップやアプリケーションとの間で Unicode プレーンテキストをコピーしたり貼り付けたりできます。ユーザーは、標準の Windows ショートカットを使用してデータをコピーできます。テキスト、表、画像もコピーできます。ホストされるアプリケーション間、同じセッション内、および異なるセッション間でコピーできます。また、ツールバーのボタンを使用すると、デスクトップやアプリケーションに Ctrl+Alt+Del キーを送信できます。



ホストされるアプリケーションまたは仮想デスクトップ上の実行中のアプリケーションで開いているドキュメントを印刷する場合、ドキュメントを PDF で出力するオプションを選択できます。この場合、PDF をローカルデバイス上に転送して、そこで表示したりローカルプリンターで印刷したりできます。ユーザーが PDF を閉じると、ファイルがデバイスから削除されます。

ホストされているアプリケーションで開かれているドキュメント内のリンクをクリックするユーザーは、セッション内でホストされているブラウザアプリケーションで **URL** を開くのか、またはローカルデバイスのブラウザを使用するのかを選択できます。

### 強化されたアプリスイッチャーのサポート

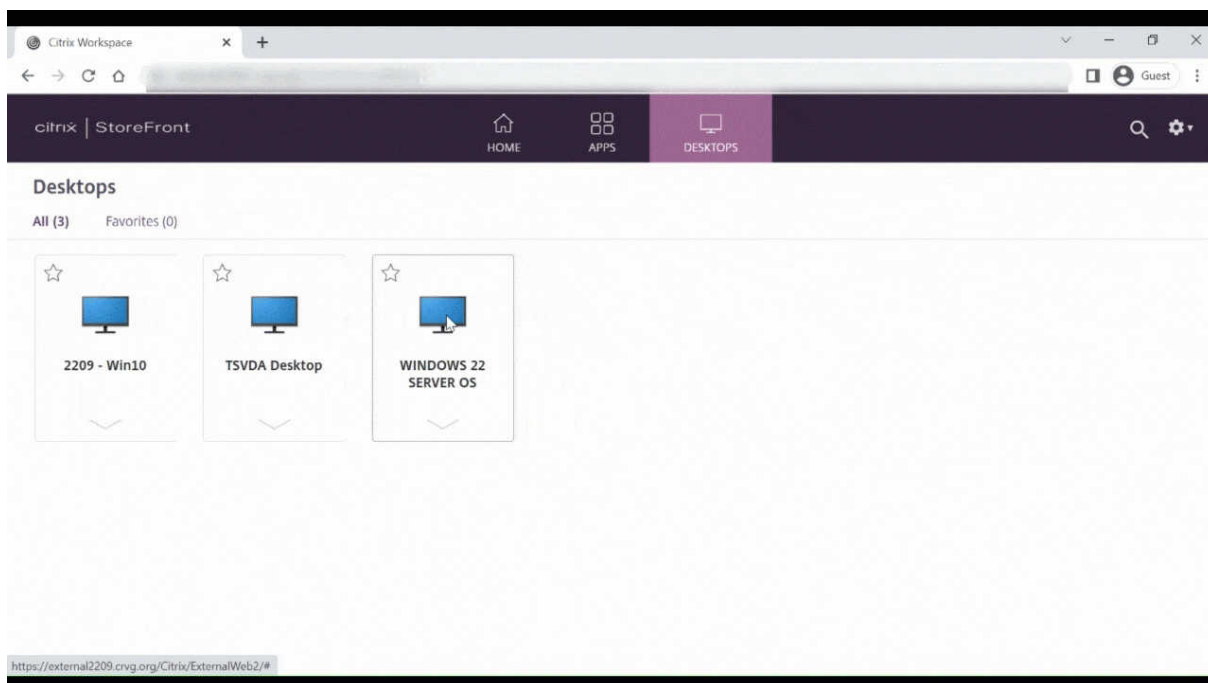
公開アプリケーションのセッションを全画面モードまたはキオスクモードで起動した場合に、セッションがデスクトップタスクバーと重なりません。アプリスイッチャーがセッションを非表示にしなくなりました。この機能強化は、単一モニターモードでのみサポートされます。

### 仮想アプリとデスクトップの起動エクスペリエンスの向上

2306 リリース以降、アプリとデスクトップの起動エクスペリエンスが向上し、起動状態に関連した情報がタイムリに提供されます。

#### 注:

HTML5 向け Citrix Workspace アプリ 2306 バージョンを使用するには、管理者が HDX SDK ファイルをアップグレードする必要があります。古い HDX SDK ファイルは、2306 バージョン以降と互換性がありません。最新の HDX SDK ファイルをダウンロードするには、[こちら](#)をクリックしてください。詳しくは、「[Citrix Workspace app for HTML5 HDX SDK](#)」の開発者向けのドキュメントを参照してください。



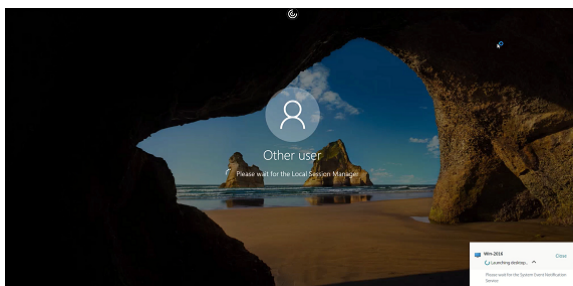
### セッション起動通知の表示を構成する

2307 以降、管理者は次の設定を使用して起動の進行状況通知の表示を有効または無効にできます。この構成が有効になっている場合、画面の右下にセッション起動の進行状況通知が表示されます。この構成が無効になっている場合、セッション起動の進行状況通知は表示されません。

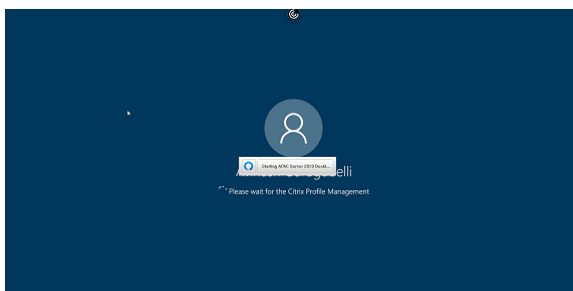
#### 注:

- デフォルトでは、この構成は有効になっています。

次のスクリーンショットは、通知が有効になっている場合に表示されます。



次のスクリーンショットは、通知が無効になっているときに表示されます。



構成 この機能は次の方法で構成できます:

HTML5 向け Citrix Workspace アプリでは、**configuration.js** ファイルは `C:\Program Files\Citrix\Receiver StoreFront\HTML5Client` フォルダにあります。このファイルを編集してこの機能を構成します。

#### メモ:

- Citrix では、**configuration.js** ファイルに変更を加える前に、バックアップを作成することをお勧めします。
- configuration.js** ファイルを編集するには、管理者レベルの資格情報が必要です。

この機能を無効にするには、次の手順を実行します:

1. **HTML5Client** フォルダの **configuration.js** ファイルに移動します。

2. **CTXTUI** 属性を追加し、この属性を **false** に設定します。

このような JSON データの例を次に示します：

```
1 {  
2  
3   "vc_channel": {  
4  
5     "CTXTUI": false  
6   }  
7  
8 }  
9  
10 <!--NeedCopy-->
```

3. 変更を保存します。

## カスタマーエクスペリエンス向上プログラム (CEIP)

June 26, 2024

収集データ	説明	使用目的
構成および使用状況データ	Citrix カスタマーエクスペリエンス向上プログラム (CEIP) では、HTML5 向け Citrix Workspace アプリの構成および使用状況データが収集され、Citrix および Google Analytics に自動的に送信されます。	このデータは、Citrix Workspace アプリの品質、信頼性、およびパフォーマンスを向上させる目的で使用させていただきます。

### 追加情報

Citrix は、お客様のデータを Citrix との契約条件に従って処理し、[Citrix Trust Center](#)で利用できる [Citrix Services Security Exhibit](#)において指定されているとおりにお客様のデータを保護します。

また、CEIP の一環として、Google Analytics を使用して Citrix Workspace アプリから特定のデータを収集します。[Google Analytics のために収集されたデータの Google での取り扱い方法](#)について確認してください。

注：

欧州連合 (EU)、欧州経済領域 (EEA)、スイス、および英国 (UK) のユーザーのデータは収集されません。

その他のリージョンのユーザーについては、Citrix および Google Analytics への CEIP データの送信を無効にすることができます。これを行うには、次のいずれかの方法を使用します：

- configuration.js を使用して CEIP を無効にする
- Global App Configuration Service を無効にする

注:

- 2006 以前のバージョンで CEIP を無効にすると、インストールされている Citrix Workspace アプリのバージョンを含む最小限の情報がアップロードされます。この最小限の情報は、顧客により使用されているさまざまなバージョンの分布状況を Citrix が把握する上で、大変に貴重です。

### GUI を使用して CEIP を無効にするには

注:

管理者が configuration.js ファイルで有効にした場合のみ、ユーザーは GUI を使用して CEIP 設定を変更できます。

1. HTML5 向け Citrix Workspace アプリの起動
2. ツールバーで [基本設定] をクリックします。
3. [Citrix Workspace アプリを改善するために匿名の使用統計を送信する] をオフにします。

注:

変更を保存するには、セッションを再起動します。

### configuration.js を使用して CEIP を無効にするには

HTML5 向け Citrix Workspace アプリでは、configuration.js ファイルは HTML5Client フォルダーにあります。このファイルを編集して HTML5 向け Citrix Workspace アプリを構成します。

注:

- Citrix では、configuration.js ファイルに変更を加える前に、バックアップを作成することをお勧めします。
- configuration.js ファイルを編集するには、管理者レベルの資格情報が必要です。

バージョン 1905 以前では、configuration.js ファイルの **ceip** の enabled 属性を **false** に設定します。

```
1 'ceip':{
2
3     'enabled':false,
4     }
5
6 <!--NeedCopy-->
```

バージョン 1906 以降では、configuration.js ファイルの **analytics** の enabled 属性を **false** に設定します。

```
1 'analytics':{  
2  
3   'enabled':false,  
4 }  
5  
6 <!--NeedCopy-->
```

## CEIP のブロック

バージョン 2007 以降の場合、管理者は次の方法で CEIP をブロックできます：

- GUI を使用して CEIP をブロックする
- configuration.js ファイル

GUI を使用して **CEIP** をブロックするには

注：

管理者が configuration.js ファイルで有効にした場合のみ、ユーザーは GUI を使用して CEIP 設定を変更できます。

1. HTML5 向け Citrix Workspace アプリの起動
2. ツールバーで [基本設定] をクリックします。
3. [Citrix Workspace アプリを改善するために匿名の使用統計を送信する] をオフにします。

注：

変更を保存するには、セッションを再起動します。

この構成は、GUI を使用して行われた構成よりも優先され、CEIP データは Citrix に送信されません。

- configuration.js ファイルを開いて **connectionEnabled** 属性を追加し、この属性を **false** に設定します：

```
1 'analytics':{  
2  
3   'connectionEnabled':false,  
4   }  
5  
6  
7 <!--NeedCopy-->
```

## 特定の CEIP データ

Google Analytics が収集する特定の CEIP データ要素は次のとおりです：

```
||||  
|---|---|
```



Citrix Workspace アプリのバージョン	セッションモード (キオスク、パブリック/全般)	セッションの種類 (デスクトップ/アプリケーション)	XenDesktop 情報 (Delivery Controller および VDA バージョン)
起動の種類 (SDK/ICAFile/FTA/Store など)	セッションのタイムゾーン	セッションの言語	クライアントのキーボードレイアウト
ネットワークソケットの種類 (HTTPS/HTTP)	機能の使用状況 (クリップボード、ファイル転送、アプリスイッチャー、印刷、USB、スマートカードなど)	デバイスのピクセル縦横比	Secure ICA (使用/未使用)
再接続タイムアウト (!= 180 の場合)	マルチモニター	グローバルアプリ構成サービス	

## 周辺機器

June 26, 2024

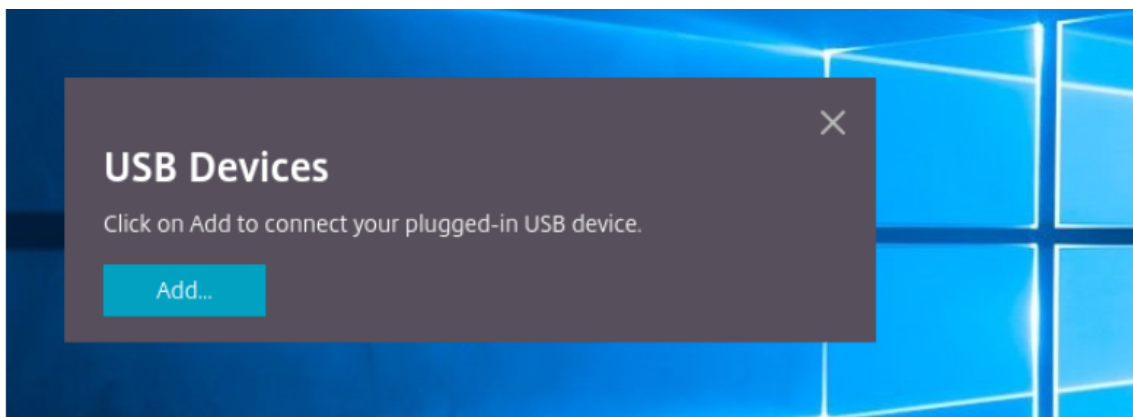
### USB デバイスリダイレクト

Chrome、Mac、Linux オペレーティングシステムで実行されている Chrome ブラウザー (バージョン 61 以降) で の汎用 USB デバイスリダイレクトがサポートされています。この機能は、セキュリティで保護された HTTPS 接続 経由で起動したセッションでサポートされます。この機能は、2 つの USB デバイスの同時リダイレクトをサポートし ます。

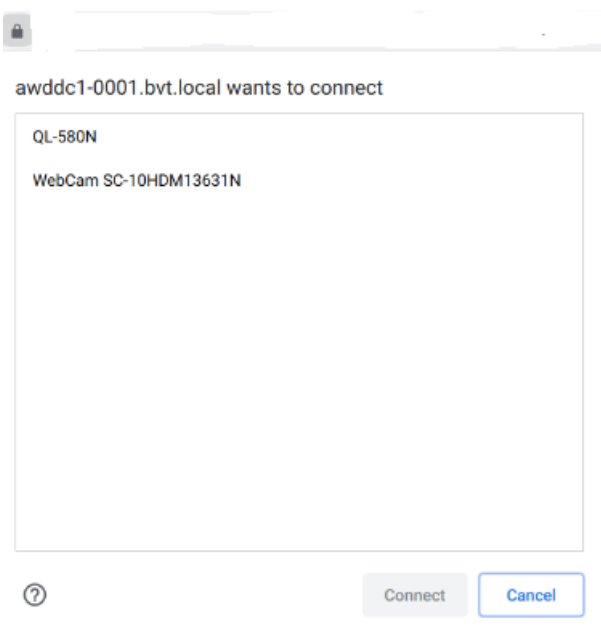
1. **USB** デバイスのリダイレクト前提条件として、サーバーで USB リダイレクトポリシーを有効にします。詳し くは、「[サーバーでの USB リダイレクトの有効化](#)」を参照してください。
2. USB デバイスをマシンに接続します。
3. セッション内のツールバーで [**USB** デバイス] アイコンをクリックします。



4. [**USB** デバイス] ダイアログボックスで、[追加] をクリックします。



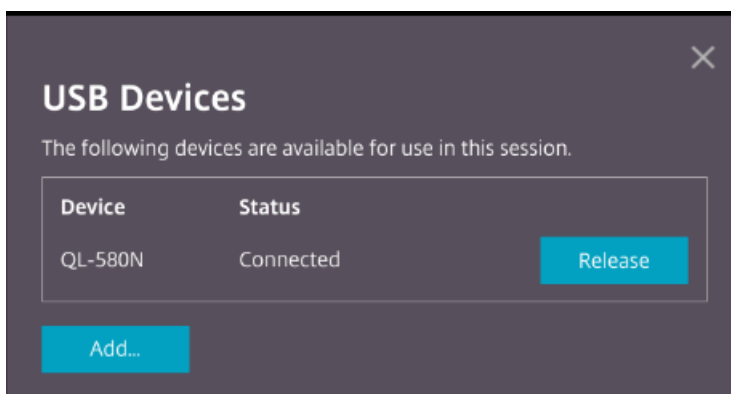
この操作を実行すると、Chrome ダイアログボックスが開き、デバイスの一覧が表示されます。



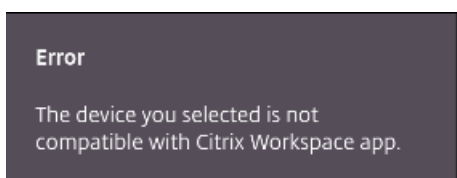
注:

Chrome ダイアログボックスに表示される USB デバイスは、HTML5 向け Citrix Workspace アプリで常にリダイレクトされるわけではありません。HTML5 向け Citrix Workspace アプリを介してリダイレクトできる USB デバイスは、アプリ内の USB デバイスダイアログボックスに表示されます。

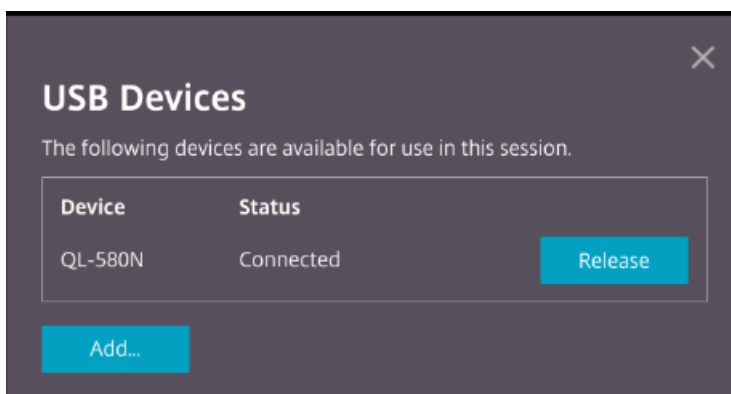
5. リダイレクトするデバイスを選択し、[接続] をクリックします。リダイレクトが成功すると、[USB デバイス] ダイアログボックスに戻り、デバイスが「接続済み」として表示されます。



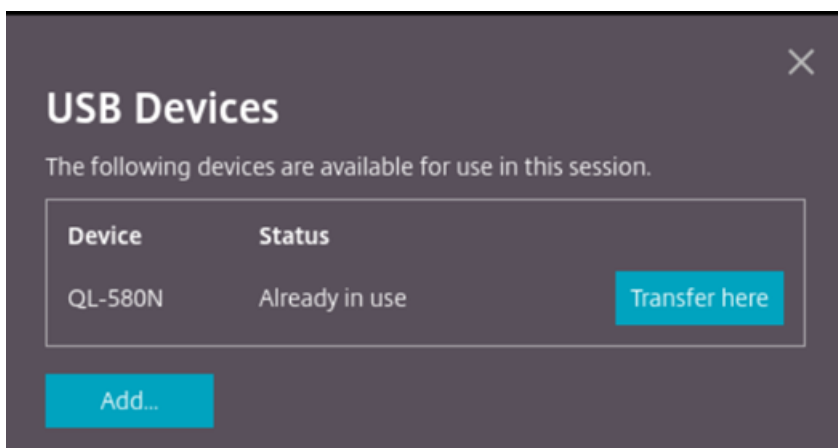
6. Citrix Workspace アプリでサポートされていない USB デバイスをリダイレクトしようとする、次のエラーメッセージが表示されます。



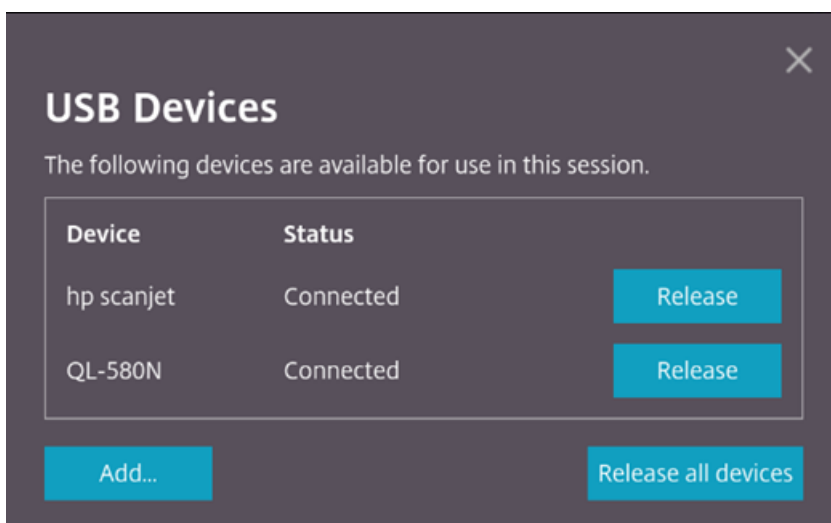
7. リモートセッションからデバイスの接続を解除するには、[リリース] をクリックします。



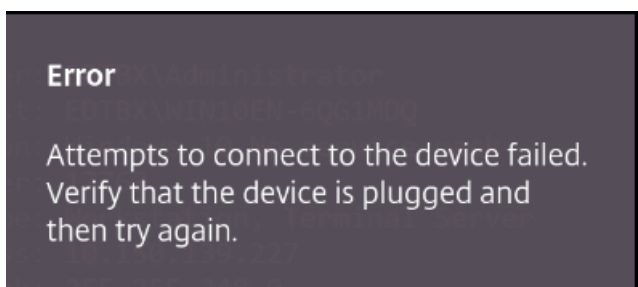
8. 複数のセッションを起動すると、別のセッション内で接続されている USB デバイスは「使用中」と表示されます。デバイスを現在のセッションに転送するには、[ここで転送] をクリックします。



9. 複数の USB デバイスをセッションにリダイレクトする場合は、[すべてのデバイスをリリース] をクリックしてデバイスをセッションから削除します。



10. [リリース] をクリックせずにリダイレクトされた USB デバイスをコンピューターから切断すると、次のエラーメッセージが表示されます。



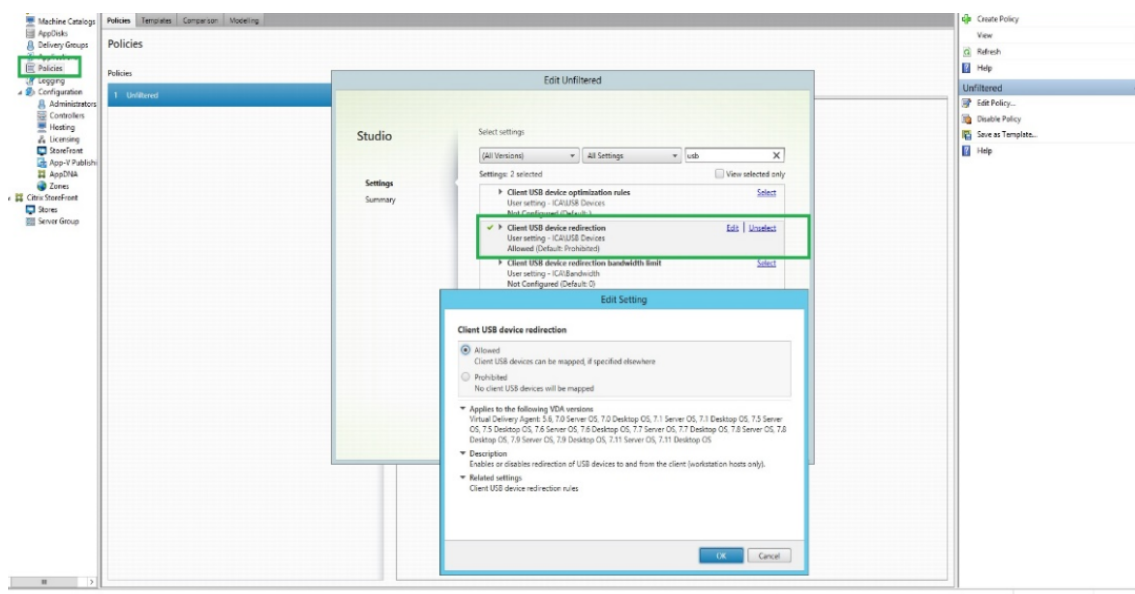
USB デバイスリダイレクト機能は、クライアントオペレーティングシステム（macOS や Chrome など）がデフォルトでデバイスドライバーを読み込まない USB デバイスにのみ適用されます。たとえば、ブラザー QL-580N ラベルプリンターにはこの機能が関係します。

Linux オペレーティングシステムで USB デバイスをリダイレクトできない場合は、ユーザーアカウントを設定し、USB デバイスを開く権限を付与してみてください。詳しくは、[Google の開発者向けドキュメント](#)を参照してください。

サーバーでの **USB** リダイレクトの有効化

サーバーで USB デバイスリダイレクトを有効にするには、次の手順を実行します：

- ドメインコントローラーで USB デバイスリダイレクトのポリシーを有効にします。



### Citrix HTML5 クライアントの USB リダイレクトの構成

デフォルトでは、USB デバイスリダイレクトポリシーがサーバーで有効になっている場合、クライアントで USB デバイスリダイレクト機能が有効になります。

この機能を無効にするには、configuration.js ファイルを編集して **toolbar** の **usb** の値を **false** に設定します。この設定は StoreFront に適用できます。configuration.js ファイルは、C:\program Files\Citrix 実際のパス\HTML5Client にあります。

```



1   'ui' : {
2
3       'toolbar' : {
4
5           'usb' : false
6       }
7   },
8   }
9
10  <!--NeedCopy-->

```

### Chrome ブラウザーの動作

- 南京錠のアイコンをクリックすると、ブラウザーのタブに [安全な接続] ダイアログボックスが表示されます。ブラウザータブがユーザー権限を持つ USB デバイスを確認できます。複数の USB デバイスがありますが、Citrix HTML5 クライアントがリダイレクトできるデバイスのみが [Citrix USB デバイス] ダイアログボックスに表示されます。これらのデバイスは、リモートセッション内で使用できます。
- ブラウザータブに付与されたアクセス権限を取り消す場合は、USB デバイスの横にある X アイコンをクリック

します。その結果、再読み込み ボタンが表示されます。[再読み込み] をクリックすると、セッションが終了します。変更を保存するには、セッションを再起動します。

 To apply your updated settings to this site, reload this page 

×

### 制限事項:

- USB デバイスリダイレクト機能は、ChromeOS デバイス上の Google Chrome ブラウザーから開始された仮想セッションに適用されます。ただし、USB リダイレクトは、Windows OS、macOS、その他のオペレーティングシステム上のブラウザーから起動された仮想セッションでは機能しません。
- セッションにリダイレクトできるのは、USB Type A デバイスのみです。ただし、Type A デバイスは Type C コネクタを介して接続することもできます。
- **USB ハブ** デバイスを解除しても、接続された **USB Type A** デバイスが解除されないことがあります。
- HID デバイス、大容量記憶装置デバイス、Web カメラのリダイレクトが十分に機能しないことがあります。オーディオおよびビデオ機能が正常に動作せず、遅延や表示の不具合が発生する可能性があります。大容量記憶装置デバイスにアクセスする CDM などの、対応する最適化された仮想チャネル (VC) を利用することをお勧めします。
- この機能は Windows 10 で動作する VDA でテスト済みで、サポートされています。
- この機能は、最大 2 つの USB デバイスで同時にテストされています。

## ファイルの処理

June 26, 2024

### ファイル転送

デフォルトでは、ユーザーは次のことを実行できます:

- ローカルのダウンロードフォルダーまたは接続された周辺機器からファイルをアップロードし、Citrix Virtual Apps and Desktops セッションまたは Citrix DaaS セッションからのデータにシームレスにアクセスできます。
- Citrix Virtual Apps and Desktops セッションまたは Citrix DaaS セッションからユーザーデバイスのフォルダーや周辺機器にファイルをダウンロードできます。

管理者は、Citrix Studio のポリシーを介して、ファイルの転送、アップロード、またはダウンロードを選択的に有効または無効にできます。

HTML5 向け Citrix Workspace アプリでは、Safari ブラウザーを使用して MacBook 上でファイルをダウンロードできます。

### 要件

- 以下を含む XenApp および XenDesktop 7.6 以降:
  - サーバー OS VDA(Windows 2008 R2 または Windows 2012 R2)上の Hotfix ICATS760WX64022.msp
  - クライアント OS VDA (Windows 7 または Windows 8.1) 上の Hotfix ICAWS760WX86022.msp  
または ICAWS760WX64022.msp
- ファイル転送ポリシーを変更するには: Citrix Studio を実行中のマシン上のグループポリシー管理 (GPM) Hotfix GPMx240WX64002.msi または GPMx240WX86002.msi

### 制限事項:

- ユーザーが一度にアップロードまたはダウンロードできるのは、最大 10 ファイルまでです。
- 最大ファイルサイズ:
  - アップロード: 2147483647 バイト (2GB)
  - ダウンロード: 262144000 バイト (250MB)

### ファイル転送のポリシー

デフォルトでは、ファイル転送は有効になっています。Citrix Studio を使って、[ユーザー設定] > [ICA\ファイルリダイレクト] にあるこれらのポリシーを変更します。ファイル転送のポリシーを使用する場合は、次のことについて考慮します:

- **ChromeOS/HTML5 向け Citrix Workspace** アプリのファイル転送 - *Citrix Virtual Apps and Desktops* セッションとエンドユーザーのデバイス間でのユーザーによるファイル転送を許可または拒否します。  
*Citrix DaaS* セッションとエンドユーザーのデバイス間でエンドユーザーがファイルを転送することを許可または禁止します。
- **ChromeOS/HTML5 向け Citrix Workspace** アプリのファイルのアップロード - ユーザーによるファイルのアップロードを許可または拒否します。ユーザーのデバイスから *Citrix Virtual Apps and Desktops* セッションまたは *Citrix DaaS* セッションへのアップロードが対象になります。
- **ChromeOS/HTML5 向け Citrix Workspace** アプリのファイルのダウンロード - ユーザーによるファイルのダウンロードを許可または拒否します。*Citrix Virtual Apps and Desktops* セッションまたは *Citrix DaaS* セッションからユーザーのデバイスへのダウンロードが対象になります。

### クライアントドライブマッピング

2303 バージョン以降、クライアントドライブマッピング (CDM) 機能によりローカルマシンでのフォルダーのマッピングがサポートされ、セッション内からアクセスできるようになります。システムファイルが含まれていない場合に、ローカルマシンから任意のフォルダーをマップできます。

エンドユーザーは次の操作を実行できます:

- ファイルとフォルダーをローカルマシンからセッション内のマップされたドライブにコピーする。
- マップされたドライブでファイルとフォルダーの一覧を表示する。
- マップされたドライブでファイルを開いて内容を読み取る。
- マップされたドライブでファイルのプロパティ（変更時刻とファイルサイズのみ）を表示する。

この機能を使用すると、HDX セッション内のファイルエクスプローラーで、仮想デスクトップドライブとローカルマシンドライブの両方に同時にアクセスできるという利点があります。この機能は、デスクトッププラットフォーム、Google Chrome および Microsoft Edge Chromium ブラウザーでのみサポートされます。

### 注:

- この機能は、デフォルトで有効になります。
- クラウドプロバイダーによってサポートされている場合、OneDrive や GDrive などのクラウドベースのドライブにマッピングできます。

### 既知の制限事項

- マップされたドライブ内のファイルとフォルダーの名前を変更することはできません。
- マッピングには完全なパスではなく、フォルダーの名前のみが含まれます。
- ローカルフォルダーに非表示のファイルがあり、そのフォルダーをマップした場合、非表示のファイルは、マップされたドライブのセッション内で表示されます。
- マップされたドライブでファイルプロパティを読み取り専用アクセスに変更することはできません。
- リムーバブルデバイスからフォルダーをマップし、アクティブなセッション中にデバイスを削除すると、マップされたドライブをセッション内で使用できなくなります。マッピングを手動で削除する必要があります。

### この機能の既知の問題

- モバイルプラットフォームで CDM 機能を使用すると、ダイアログボックスの上部が切り捨てられます。

### 構成

次の方法で CDM 機能を構成できます:

- `Configuration.js`

### 注:

前提条件として、管理者は Delivery Controller (DDC) でクライアントドライブリダイレクトポリシーを有効にする必要があります。詳しくは、Citrix Virtual Apps and Desktops ドキュメントの「[クライアントドライブリダイレクト](#)」を参照してください。



**Configuration.js configuration.js** ファイルは、`C:\Program Files\Citrix\Receiver StoreFront\HTML5Client` フォルダにあります。このファイルを編集して CDM 機能を構成します。

メモ:

- Citrix では、**configuration.js** ファイルに変更を加える前に、バックアップを作成することをお勧めします。
- **configuration.js** ファイルを編集するには、管理者レベルの資格情報が必要です。

この機能を無効にするには:

1. **HTML5Client** フォルダで **configuration.js** ファイルを見つけて編集します。
2. **clientDriveMapping** 属性を追加し、属性 **enabled** を **false** に設定します。例:

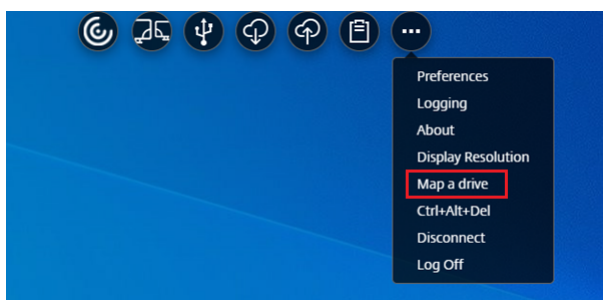
```
1  `features':  
2    {  
3  
4    'clientDriveMapping' :  
5      {  
6  
7        'enabled' : false,  
8        'availableAccessLevels': [1, 2, 3],  
9        // 1 - Read-Write Access, 2 - Read-Only Access, 3 -  
10       No-Access  
11       //drop-down options  
12       'accessLevel': 1  
13       // 1 - Read-Write Access, 2 - Read-Only Access, 3 - No  
14       -Access  
15       //admin sets these values  
16     }  
17   }  
18 <!--NeedCopy-->
```

3. 変更を保存します。

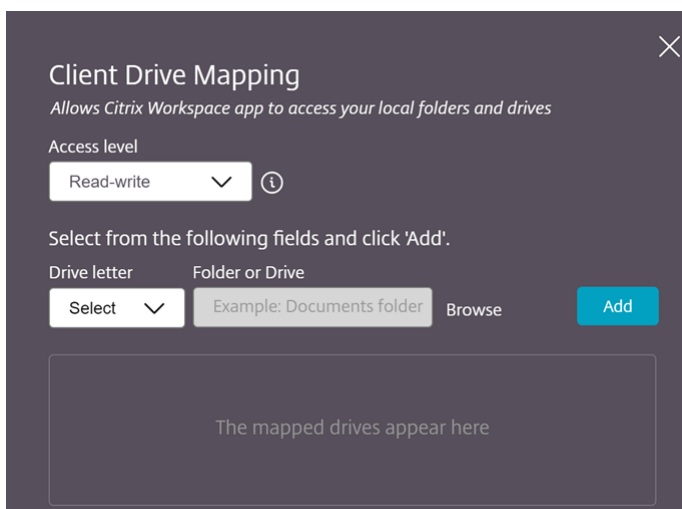
**アクセスレベル** この機能を有効にすると、フォルダまたはドライブのアクセスレベルを設定できます。たとえば、管理者が **availableAccessLevels** を **[2, 3]** に設定する場合、エンドユーザーは、ドロップダウンリストで [読み取り専用アクセス] オプションと [アクセスなし] オプションを表示できます。

機能の使用方法

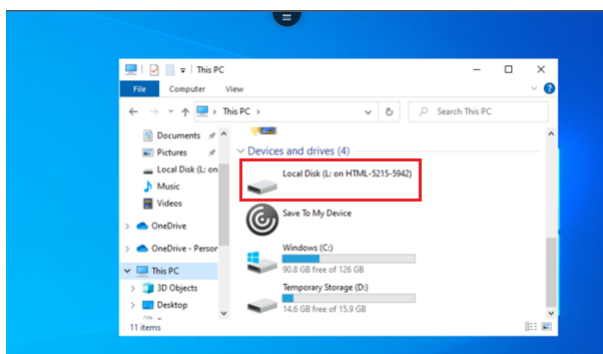
1. [ツールバー] > その他 (...) > [ドライブをマップする] に移動します。



2. フォルダーまたはドライブの [アクセスレベル] を選択します。表示されるドロップダウンオプションは、組織の IT 管理者がプロファイルに対して設定したアクセスレベルによって異なります。



3. ドライブ文字を選択し、[参照] をクリックして、ローカルマシンのフォルダーまたはドライブに移動します。



4. [追加] をクリックします。
5. セッションを切断して再接続します。

セッションには、セッション内でマップされているドライブ文字が表示されます。

## キーボード

June 26, 2024

東アジア言語の汎用クライアント **IME**

汎用クライアント IME 機能は、中国語、日本語、および韓国語（CJK）の文字の入力および表示エクスペリエンスを強化します。セッション中にこの機能を使用すると、カーソル位置に CJK 文字を入力できます。この機能は、Windows VDA および Linux VDA 環境で使用できます。

IME は通常、候補ウィンドウ、テキスト作成ウィンドウなどのユーザーインターフェイス（UI）コンポーネントを表示します。テキスト作成ウィンドウには、作成に使用する文字とテキスト作成 UI 要素が含まれます。テキスト作成 UI 要素には、下線、背景色などがあります。候補ウィンドウには、候補リストが表示されます。



テキスト作成ウィンドウでは、確定済みの文字と作成中の文字を選択できます。作成ウィンドウと候補ウィンドウは、入力カーソルに沿って移動します。結果として、この機能により、テキスト作成ウィンドウでのカーソル位置での文字入力機能が強化されています。また、テキスト作成ウィンドウと候補ウィンドウでの表示機能も改善されています。

前提条件:

- Linux VDA の場合、クライアントキーボードレイアウトの同期と **IME** の改善ポリシーを有効にします。

- Windows VDA の場合、**Unicode** キーボードレイアウトのマッピングポリシー、クライアントキーボードレイアウトの同期および **IME** の改善ポリシーを有効にします。
- Citrix Linux VDA バージョン 2012 以降を使用します。Citrix Windows VDA の場合は、現在利用可能なすべての Windows VDA バージョンが、汎用クライアント IME 機能をサポートしています。
- ブラウザーの言語は、日本語、中国語（簡体字）、中国語（繁体字）、または韓国語である必要があります。
- Google Chrome、Mozilla Firefox、Apple Safari 13 以降、または Microsoft Edge を使用します。

**注:**

- macOS、iOS、Android プラットフォームの場合は、デバイスのシステム言語を CJK 言語のいずれかに変更します。ブラウザーの言語は自動的に更新されます。
- Windows、Linux、および ChromeOS プラットフォームの場合、ブラウザーの言語をいずれかの CJK 言語に変更します。

**構成:**

バージョン 2105 以降、汎用クライアント IME 機能はデフォルトで有効になっています。管理者は、StoreFront サーバー (C:\ProgramFiles\Citrix\Receiver StoreFront\HTML5Client) の **configuration.js** ファイルを使用して機能を有効または無効にできます。

ブラウザー言語でこの機能を無効にするには、**configuration.js** ファイルを編集し、`features.ime.mode.<languageID>` を `seamlessIme` に設定します。**seamlessIme** が設定されている場合、汎用クライアント IME 機能は無効になります。

**configuration.js:**

```
1   var HTML5_CONFIG = {
2
3       'features': {
4
5           ime: {
6
7               mode: {
8
9                   'ja': "seamlessIme",
10                  'zh': "seamlessIme",
11                  'ko': "seamlessIme"
12              }
13          }
14      }
15  }
16  }
17  }
18  }
19  }
20  <!--NeedCopy-->
```

ブラウザー言語でこの機能を有効にするには、**configuration.js** ファイルを編集して `features.ime.mode.<languageID>` を `ctxIme` に設定するか、**mode** プロパティを空 (`{}`) のままにします。これはデフォルトの

動作です。

**configuration.js:**

```
1 var HTML5_CONFIG = {
2
3   'features': {
4
5     ime: {
6
7       mode: {
8
9         'ja': "ctxIme",
10        'zh': "ctxIme",
11        'ko': "ctxIme"
12      }
13    }
14  }
15 }
16 }
17 }
18 }
19 }
20 <!--NeedCopy-->
```

**機能の制限事項:**

Windows、Mac、Linux、ChromeOS、iOS、Android クライアントプラットフォームで HTML5 向け Citrix Workspace アプリで拡張画面を使用する場合に、汎用クライアント IME がサポートされるようになりました。ただし、マルチモニターセッションはまだサポート対象外であるため、代わりにサーバー **IME** を使用できます。

サーバー **IME** を有効にするには、次の操作を実行します:

1. [Change the VDA or the server keyboard language to Chinese, Japanese or Korean \(CJK\) as required.](#)
2. [Change the client device keyboard language to English.](#)

**Microsoft Windows** ログキーとその他のショートカットキーのサポート

Microsoft Windows で実行されているセッションで Microsoft Windows ログキーと次のキーの組み合わせのサポートが追加されています。ショートカットキーは、セッションツールバーで 全画面表示オプションを選択した場合にのみ機能します。

- Windows + R
- Windows + D
- Windows + E
- Windows + M
- Windows + S
- Windows + CTRL + S

- Windows + T
- Windows + U
- Windows + 数字
- Windows + X
- Windows + K

また、Microsoft Windows で実行されているセッションで、次のキーボードショートカットもサポートされるようになりました:

- Alt + Tab
- Esc キー
- Ctrl + N
- Ctrl + T
- Ctrl + W

macOS で実行されているセッションで、次の追加のキーボードショートカットもサポートされるようになりました:

- Esc キー
- Command + N
- Command + T
- Command + W
- Ctrl + N
- Ctrl + T
- Ctrl + W

### キーボードショートカット

この機能を使用すると、フルスクリーンモードでいくつかの追加ショートカットをリダイレクトできます。Microsoft Windows ロゴキーとその他のキーボードショートカットのデフォルト設定は次のとおりです:

#### **HTML5\_CONFIG > features > keyboard > captureAllKeys。**

**captureAllKeys** のデフォルト値は **true** に設定されます。デフォルトを変更するには、**configuration.js** ファイルを開き、属性を **false** に設定します。

注:

この機能はデフォルトで有効になっています。

### スキャンコード入力モード

Citrix Workspace アプリを使用すると、外部の物理キーボードを使用して、VDA のサーバー側のキーボードレイアウトと連携できます。管理者がスキャンコードモードを有効にすると、エンドユーザーはクライアントではなくサー

バーのキーボードレイアウトを使用する可能性があります。

この機能により、特に東アジア言語の物理キーボードを使用する場合のユーザーエクスペリエンスが向上します。

メモ:

- デフォルトでは、この機能は無効になっています。
- タッチデバイスでは、スキャンコードが有効になっていると、Citrix Workspace アプリでスクリーンキーボードソフトウェアが機能しません。

### 構成

スキャンコードでの入力方法は次の手段で構成できます:

- Configuration.js

### Configuration.js

メモ:

- Citrix では、**configuration.js** ファイルに変更を加える前に、バックアップを作成することをお勧めします。
- **configuration.js** ファイルを編集するには、管理者レベルの資格情報が必要です。
- **configuration.js** ファイルは、`C:\Program Files\Citrix\Receiver StoreFront\HTML5Client` フォルダーにあります。

スキャンコードのサポート機能を有効にするには、次の手順を実行します:

1. **configuration.js** ファイルに移動します。
2. 同ファイルを編集し、**scancode** 属性を **true** に設定します。

このような JSON データの例を次に示します:

```
1  'features' : {
2
3      'ime': {
4
5          'scancode': true,
6      }
7  }
8  }
9
10 <!--NeedCopy-->
```

3. 変更を保存します。

### セッションエクスペリエンス

June 26, 2024

#### DPI スケール機能

HTML5 向け Citrix Workspace アプリは、単一モニター上のアプリおよびデスクトップセッションの DPI スケールをサポートします。

HTML5 向け Citrix Workspace アプリでは、高いピクセル縦横比のモニター上で VDA の解像度を設定できます。DPI スケール機能は、アプリおよびデスクトップセッションではデフォルトで無効になっています。

HTML5 向け Citrix Workspace アプリ 1908 以前では、セッションツールバーで [ツールバー] > [詳細] > [基本設定] > [解像度を表示する] の順に選択してアプリおよびデスクトップセッションの解像度を設定します。VDA で正しい解像度が設定されています。

HTML5 向け Citrix Workspace アプリ 1909 以降の場合、セッションツールバーで [ツールバー] > [詳細] > [解像度を表示する] > [デバイスのピクセル縦横比でスケール] の順に選択して、アプリおよびデスクトップセッションの解像度を設定します。VDA で正しい解像度が設定されています。

VDA で解像度を正しく設定すると、ぼやけたテキストが鮮明に表示されます。

制限事項:

- 高 DPI スケール機能は、タッチスクリーンデバイスでは無効です。

#### セッション画面の保持

セッション画面の保持機能を有効にすると、データを損失することなく、サーバー上のセッションがアクティブのまま保持されます。ネットワークが中断されると、セッション画面で応答しなくなるため、ユーザーにもネットワークが切断されていることがわかります。ユーザーは、中断中でも引き続きディスプレイにアクセスできます。ただし、アプリケーションでの作業を再開できるのは、ネットワーク接続が回復した後になります。また、セッションに再接続するときに再認証用のログオン画面が表示されないため、ユーザーは即座に作業を再開できます。

注:

HTML5 向け Citrix Workspace アプリのユーザーは、サーバー側の設定を上書きできません。

セッション画面の保持機能とともに、TLS (Transport Layer Security) を使用できます。

注:

TLS は、ユーザーデバイスと Citrix Gateway 間で送信されるデータのみを暗号化します。

セッション画面の保持の構成について詳しくは、Citrix Virtual Apps and Desktops ドキュメントの「[セッション画面の保持のポリシー設定](#)」を参照してください。



### ツールバー

ツールバーの拡張機能は、デフォルトで有効になります。

ツールバーを非表示にするには:

1. 管理者としてログイン中に、**C:\ProgramFiles\Citrix\<actual path>\HTML5Client** にある **configuration.js** ファイルにアクセスします。actual path は実際のパスです。
2. configuration.js ファイルで「**menubar key**」を検索します。
3. **configuration.js** ファイルで、「**menubar**」:false を設定します。

個別のアイコンを非表示にして、ツールバーに表示されないようにすることもできます。たとえば、ツールバーの [ctrl+alt+del] ボタンを非表示にするには、次の手順に従います:

1. 管理者としてログイン中に、**C:\ProgramFiles\Citrix<actual path>\HTML5Client** にある **configuration.js** ファイルにアクセスします。actual path は実際のパスです。
2. configuration.js ファイルで「**lock**」を検索します。
3. **configuration.js** ファイルで、**lock:false** を設定します。

### URL のリダイレクト

URL のリダイレクトを使用すると、ユーザーに以下のどちらを使用させて当該の URL にアクセスできるようにするかを制御できます。

- サーバー上で公開されているブラウザ  
または
- ユーザーデバイスで実行するブラウザ

URL (ホストからクライアントへ) のリダイレクトは、コンテンツのリダイレクト機能の一種です。この機能は、サーバー OS の VDA でのみサポートされ、デスクトップ OS の VDA ではサポートされません。

URL のリダイレクトを有効にすると、URL はサーバー VDA でインターセプトされてからユーザーデバイスに送信されます。HTML5 向け Citrix Workspace アプリが、URL をセッション内で開くかローカルデバイスで開くかを選択するようにユーザーに求めるダイアログを表示します。このダイアログは、すべての URL に対して表示されます。

URL のリダイレクトが無効になると、URL はサーバー VDA 上の Web ブラウザーまたはマルチメディアプレーヤーで開きます。URL のリダイレクトが有効になっている場合、ユーザーがその機能を無効にすることはできません。

URL のリダイレクトは、以前はホストからクライアントへのリダイレクトと呼ばれていました。

詳しくは、「[一般コンテンツリダイレクト](#)」を参照してください。

### バッテリー状態インジケータ

デバイスのバッテリー状態が、仮想デスクトップセッションのシステムトレイに表示されるようになりました。以前は、バッテリー状態インジケータはセッションに表示されませんでした。この設定が原因で、バッテリー残量がな

なくなった後にノートブックがシャットダウンし、生産性が低下することがありました。

新しく利用可能になったバッテリー状態インジケータ機能は、Google Chrome および Microsoft Edge (Chromium) ブラウザーでサポートされます。VDA バージョン 7.18 以降でのみサポートされます。

注:

Microsoft Windows 10 VDA では、バッテリー状態インジケータが表示されるまでに約 1~2 分かかる場合があります。

## マルチモニター

June 26, 2024

### マルチモニターサポート

以前のマルチモニター表示機能では、接続しているデスクトップまたはアプリのセッションのブラウザタブを追加で開くことができました。追加のブラウザタブを外部モニターにドラッグできました。

今回のリリースでは、Citrix Workspace アプリは、手作業ではなくワンクリックで複数のモニターに対応できるようになりました。デバイスに外部モニターが接続されていない場合、セッション中のツールバーにマルチモニターアイコンは表示されません。必要な権限を使用して外部モニターを接続した場合に、マルチモニターアイコンが表示されます。アイコンをクリックすると、接続されているすべてのモニターにまたがってウィンドウが表示されます。

この機能はデフォルトで有効になっています。

この機能を無効にするには、**configuration.js** ファイルを編集します。**configuration.js** ファイルは、**C:\Program Files\Citrix\Receiver StoreFront\HTML5Client** フォルダにあります。**configuration.js** ファイルを編集し、**trueMMSupportForHTML5** プロパティの値を **false** に設定します。

例:

```
1  ````
2  var HTML5_CONFIG =
3  {
4
5      'features': {
6
7          'graphics': {
8
9              'multiMonitor': true,
10             'trueMMSupportForHTML5': false
11             }
12         }
13     }
```

```
14
15 }
16 ;
17 <!--NeedCopy--> ````
```

注:

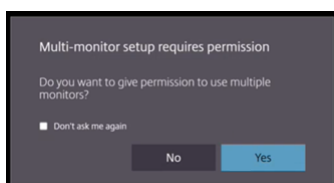
- この機能を無効にすると、引き続き古い動作が表示されます。マルチモニターアイコンをクリックすると、デスクトップまたはアプリのセッションの追加のブラウザータブを表示できます。

マルチモニター機能は、以下をサポートします:

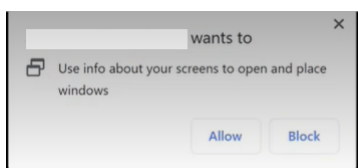
- 最大 2 台の外部モニターを使用できます。
- マルチモニターのさまざまな表示レイアウトを選択できます。
- この機能は、Windows 上の Google Chrome および Microsoft Edge Chromium ブラウザーでのみサポートされます。
- macOS デバイスは古い動作がサポートされます。つまり、ツールバーのマルチモニターアイコンをクリックすると、接続しているデスクトップまたはアプリケーションセッションの 2 番目のウィンドウが表示されます。作成したウィンドウをセカンダリモニターにドラッグすることができます。
- 使用可能なモニターのサブセットすべてで、仮想デスクトップを全画面モードで使用できます。これで、仮想デスクトップをドラッグして 2 台のモニター（3 台以上の場合）にまたがるようにしてから、マルチモニターモードを選択できます。このシナリオの一般的な使用例は次のとおりです:
  - デバイスのネイティブモニターでビデオ会議アプリを実行し、通話中に仮想デスクトップのコンテンツを他の 2 台のモニターにまたがって全画面で表示したい場合。

この機能を使用するには

1. 初めてのユーザーとして、セッションを開始すると、マルチモニター設定を使用する権限を求める次のポップアップが表示されます。

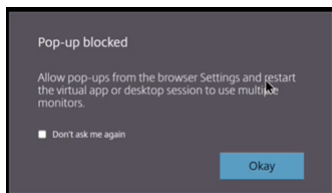


2. [はい] をクリックします。



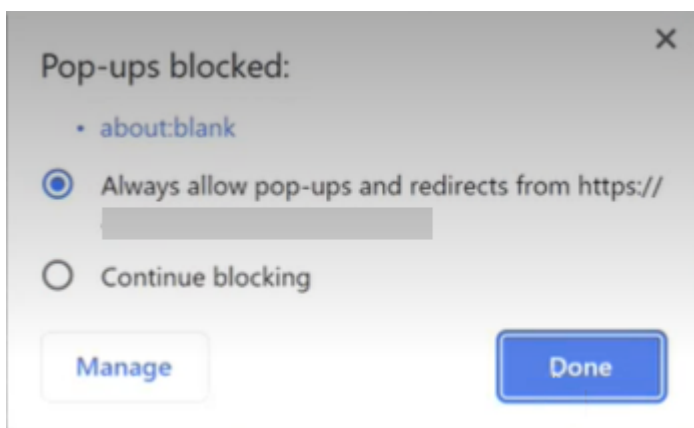
ブラウザからポップアップが開き、複数のモニターを使用するアクセス許可を求められます。[禁止] をクリックすると、複数のモニターを使用できなくなります。

3. [許可] をクリックします。



ポップアップが開き、ポップアップブロッカーについての説明が表示されます。


4. [OK] をクリックします。ブラウザの設定に移動し、[常にポップアップを許可する] を選択します。



5. [完了] をクリックします。

注:

変更を保存するには、セッションを再起動します。

6. プライマリモニターのマルチモニターアイコン  をクリックします。

接続されているすべてのモニターにまたがるウィンドウスパンを確認できます。

重要:

マルチモニターの権限を拒否すると、マルチモニターアイコンは表示されません。代わりに、全画面アイコンがツールバーに表示され、以前の動作に移行します。マルチモニターの権限を手動で再度有効にするには、ブラウザの [設定] > [プライバシーとセキュリティ] > [サイト設定] > [権限] > [追加の権限] に移動して、[ウィンドウの配置] を許可します。

メモ

- 外部モニターでは、リソースウィンドウは全画面モードではありません。代わりに、外部モニターのサイズと同じサイズのウィンドウモードになっています。各外部モニターウィンドウでのユーザーエクスペリエンスを

向上させるために、手動で全画面に切り替えることをお勧めします。Windows では F11 キーを使用します。Mac では、ウィンドウの左上隅にある緑色のボタンにポインターを移動し、メニューから [フルスクリーンにする] を選択します。

- マルチモニターの状態は、異なるデバイスのセッション間で記憶されません。そのため、セッションごとにツールバーのマルチモニターアイコンを手動でクリックする必要があります。

### 機能の制限事項

- マルチモニター設定では、次の場合にセッションがシングルモニターモードに復元されます：
  - Microsoft Teams を使用して、プライマリモニターの画面を共有します。
  - ツールバーの [ログ] または [アップロード] オプションを選択します。  
マルチモニターアイコンをクリックして、引き続き複数のモニターを使用します。

### セッションツールバーによるマルチモニターのサポート

この機能は古い動作で、接続しているデスクトップまたはアプリケーションセッションのセカンダリウィンドウを作成し。作成したウィンドウをセカンダリモニターにドラッグすることができます。デスクトップとアプリケーションの両方のセッションで、マルチモニター表示機能を使用できます。

マルチモニター表示機能を使用するには、次の手順を実行します：

1. セッションツールバーの「マルチモニター」アイコンをクリックします。



解像度 1024x768 のセカンダリウィンドウが表示されます。また、サーバーの情報をデュアルモニターに更新します。

2. セカンダリウィンドウをドラッグしてサイズを変更したり、一方または両方のモニターで全画面モードにすることができるようになりました。

ウィンドウのサイズを変更するたびに、サーバー上でセカンダリウィンドウの解像度が更新されます。

マルチモニターモードを終了するには、セカンダリウィンドウを閉じます。

Citrix Workspace アプリは、セカンダリモニターの解像度の詳細を認識しませんが、マルチモニターモードでは、解像度に合わせて柔軟にサイズを変更できます。

セッションにフォーカスするには、ツールバーのマルチモニターアイコンをクリックします。

この機能はデフォルトで有効になっています。

この機能を無効にするには、**configuration.js** ファイルを編集し、**multiMonitor** プロパティの値を **false** に設定します。

```
1     'ui' : {  
2  
3         'toolbar' : {  
4  
5             'multiMonitor' : false  
6         }  
7     }  
8  
9     ,  
10 <!--NeedCopy-->
```

**Citrix Virtual Desktops** をデュアルモニターで使用する：

1. ツールバーで [マルチモニター] をクリックします。
2. 拡張ウィンドウが作成されます。このウィンドウを拡張モニターにドラッグします。  
画面が両方のモニターに拡張されます。

制限事項：

- macOS デバイスでは、セカンダリウィンドウが Chrome の新しいタブとして開きます。

## マルチメディア

June 26, 2024

### オーディオ

- オーディオを VDA バージョン 2008 以前で機能させるには、一時的な回避策として、次のように構成します：  
chrome.exe 起動パラメーターの最後に以下を追加します：  
-disable-features=AudioServiceSandbox
- macOS で Safari を使用している場合、セッション内でオーディオファイルを再生することはできません。

### アダプティブオーディオ

アダプティブオーディオを使用すれば、VDA で音質ポリシーを構成する必要はありません。アダプティブオーディオは環境の設定を最適化します。従来のオーディオ圧縮形式を置き換え、優れたユーザーエクスペリエンスを提供します。

詳しくは、「[アダプティブオーディオ](#)」を参照してください。

### 機能の属性

次の 2 つの機能の属性があります：

- **EnableAdaptiveAudio**：値を true に設定すると、アダプティブオーディオ機能が有効になります。この機能を無効にするには、値を false に設定します。
- **EnableStereoRecording**：ステレオ録音はオプションの機能です。デフォルトでは、この機能は無効になっています。値を true に設定して Google Chrome ブラウザーでステレオ録音を有効にするか、値を false に設定してこの機能を無効にします。この機能は、アダプティブオーディオ機能が有効になっている場合にのみサポートされます。**EnableStereoRecording** 属性を true に設定すると、エコーキャンセルを無効にした Google Chrome ブラウザーでステレオ録音がサポートされます。Apple Safari および Mozilla Firefox ブラウザーでは、ステレオ録音をサポートできません。

### 構成方法

アダプティブオーディオ機能は次のように構成できます：

**Configuration.js** HTML5 向け Citrix Workspace アプリでは、**configuration.js** ファイルは `C:\Program Files\Citrix\Receiver StoreFront\HTML5Client` フォルダーにあります。このファイルを編集してアダプティブオーディオを構成します。

メモ：

- Citrix では、**configuration.js** ファイルに変更を加える前に、バックアップを作成することをお勧めします。
- configuration.js ファイルを編集するには、管理者レベルの資格情報が必要です。

アダプティブオーディオを構成するには：

1. **HTML5Client** フォルダーの **configuration.js** ファイルに移動します。
2. **EnableAdaptiveAudio** 属性を追加し、この属性を **true** に設定します。**EnableStereoRecording** を追加し、この属性を **false** に設定します。例：

```
1  'features' : {
2
3    'audio' : {
4
5      'EnableAdaptiveAudio': true
6    }
7  }
8
9
10 <!--NeedCopy-->
```

```
1  'features' : {  
2  
3    'audio' : {  
4  
5      'EnableStereoRecording': false  
6    }  
7  
8  }  
9  
10 <!--NeedCopy-->
```

1. [Save] をクリックします。

注:

- この機能を無効にするには、**EnableAdaptiveAudio** 属性を **false** に設定します。

#### 既知の制限事項

- Mozilla Firefox ブラウザーでは、録音の再サンプリングをサポートしていません。異常が起こった場合、Mozilla Firefox での録音が失敗することがあります。

Mozilla Firefox ブラウザーを使用すると、録音に対するアダプティブオーディオのサポートが無効になります。

- Apple Safari および Mozilla Firefox ブラウザーでは、ステレオ録音はサポートされていません。これは、ブラウザーの制限によるものです。

#### オーディオデバイスのプラグアンドプレイのサポート

以前は、単一のオーディオ再生および録音デバイスのみがサポートされ、実際のデバイス名に関係なく「**Citrix HDX Audio**」として表示されていました。

多くのオーディオデバイスがサポートされ、VDA にリダイレクトされます。これで、オーディオデバイスをリダイレクトするときに、VDA の [Sound] > [Playback] と [Sound] > [Recording] でオーディオデバイスの実際の名前が表示されるようになりました。VDA 上のデバイス一覧は、オーディオデバイスを接続する、または取り外すたびに動的に更新されます。

注:

- この機能は、デフォルトで有効になります。

#### 構成

**configuration.js** を使用して、この機能を次のように構成できます:



メモ:

- Citrix では、**configuration.js** ファイルに変更を加える前に、バックアップを作成することをお勧めします。
- **configuration.js** ファイルを編集するには、管理者レベルの資格情報が必要です。

この機能を無効にするには:

1. **configuration.js** ファイルに移動します。

注:

**configuration.js** ファイルは、**C:\Program Files\Citrix\HTMLClient** フォルダにあります。

2. ファイルを編集し、**AudioRedirectionV4** 属性を見つけます。属性を **false** に設定します。

例:

```
1   'features' : {
2
3       'audio' : {
4
5           'AudioRedirectionV4': false
6       }
7
8   }
9
10 <!--NeedCopy-->
```

3. 変更を保存します。

既知の制限事項

- VDA では、内蔵オーディオデバイスの名前は英語のみで表示されます。この問題は、ChromeOS ベースのデバイスを使用している場合に発生します。[RFHTMCRM-8667]
- この機能は、Microsoft Chromium Edge および Google Chrome ブラウザーでのみサポートされます。

### Web カメラ

Citrix Workspace アプリは、Web カメラが組み込まれた 32 ビットアプリケーションと 64 ビットアプリケーションの両方の Web カメラの最適化をサポートします。

### Web カメラリダイレクト

Web カメラリダイレクトを構成するには:

1. **configuration.js** ファイルを開きます。
2. **HTML5\_CONFIG > features > video > config > codecType** の順に移動します。

注:

- Google Chrome および Microsoft Edge Chromium ブラウザーは、ハードウェアコーデックとソフトウェアコーデックの両方を使用します。Mozilla Firefox および Apple Safari ブラウザーは、ソフトウェアコーデックのみを使用します。

3. **codecType** 値を選択します:

- 1 - SOFTWARE\_CODEEC にフォールバックする HARDWARE\_CODEEC (デフォルト)
- 2 - SOFTWARE\_CODEEC のみ
- 3 - HARDWARE\_CODEEC のみ

### **Web** カメラリダイレクトでのサポートの強化

Web カメラリダイレクトのサポートが拡張され、Google Chrome ブラウザーと Microsoft Edge (Chromium) ブラウザーだけでなく、Mozilla Firefox ブラウザーや Apple Safari ブラウザーでも利用できるようになりました。

### **Microsoft Teams** の最適化

Microsoft Teams は、Google Chrome ブラウザーでのみ音声通話、ビデオ通話、および画面共有機能をサポートしています。Google Chrome はバージョン m97 以降が必要です。

注:

- Microsoft Teams の最適化は、VDA の Web バージョンではなく、Microsoft Teams デスクトップバージョンに適用されます。
- 画面共有機能はデフォルトで有効になっています。

機能の制限事項:

- Microsoft Teams の最適化を使用して画面を共有すると、画面共有を示す赤い境界線が表示されません。[RFHTMCRM-6360]
- Microsoft Teams の最適化を使用する場合、画面共有機能はデフォルトで無効になっています。有効にすると、ローカルデバイスのコンテンツを共有できます。[RFHTMCRM-6156]

この機能の既知の問題:

- Microsoft Teams の最適化は、Google Chrome ブラウザーでのみサポートされています。[RFHTMCRM-6194] [RFHTMCRM-4724]

shim ライブラリバージョンのトラブルシューティングについては、「[Microsoft Teams の最適化ログ](#)」のセクションを参照してください。

### 画面共有

バージョン 2209 以降では、デフォルトで画面共有が有効になっています。エンドユーザーは、Citrix Workspace アプリで開いたアプリとタブを共有できるようになりました。画面共有中は、共有ウィンドウの周囲に青い枠が表示されます。

画面全体を共有するには、管理者が `C:\Program Files\Citrix\Receiver StoreFront\HTML5Client` フォルダにある `configuration.js` ファイルを編集し、`shareAllContent` 属性を `true` に変更します。この機能がオンになっていると、エンドユーザーは Citrix Workspace アプリから開かれていないリソースを含む画面全体を共有できます。

例:

```
1      'msTeamsOptimization':{
2
3          'screenSharing' : true,
4          'shareAllContent' : true
5          'seamlessApps' : true,
6          'webcamSupportInMM' : true,
7          'originTrialToken' : {
8
9              'chrome': "",
10         }
11     },
12     }
13
14 <!--NeedCopy-->
```

### 動的緊急通報 (Dynamic e911) のサポート

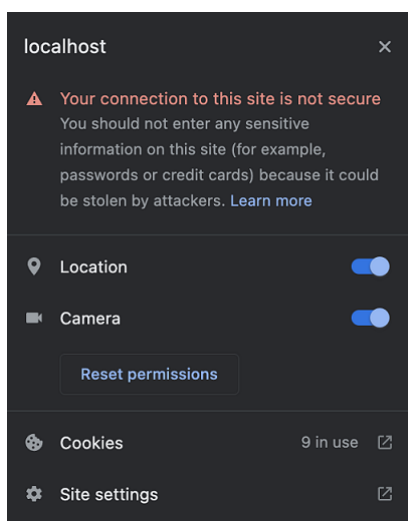
Citrix Workspace アプリは、動的緊急通報をサポートしています。Microsoft Calling Plans、Operator Connect、および Direct Routing で使用すると、次の機能が提供されます:

- 緊急通報の構成とルーティング
- セキュリティ担当者に通知する

通知は、VDA で実行されている Microsoft Teams クライアントではなく、エンドポイントで実行されている Citrix Workspace アプリの現在の場所に基づいて送信されます。

Ray Baum 法では、緊急車両を派遣可能な 911 発信者の位置情報を、適切な公衆安全応答ポイント (PSAP) に送信する必要があります。HTML5 向け Citrix Workspace アプリ 2202 以降、HDX を使用した Microsoft Teams の最適化は Ray Baum 法に準拠しています。

Microsoft Teams の最適化における e911 通話の場合、次のように、位置情報へのアクセスを有効にします：



### Microsoft Teams の最適化における背景のぼかしと効果

2303 リリース以降、HTML5 向け Citrix Workspace アプリで、Microsoft Teams によるビデオ通話の最適化の背景のぼかしと効果が導入されました。これで、背景をぼかしたり、Microsoft Teams が提供する背景の効果に置き換えたりして、会話の最中シルエット（体と顔）に集中できるようにすることで、突然集中力が乱されることを回避できます。この機能は、P2P および電話会議で使用できます。

メモ：

- デフォルトでは、この機能は無効になっています。
- この機能は、Microsoft Teams の UI と統合されました。マルチウィンドウのサポートは、VDA を 2112 以降に更新するときに必要な前提条件です。詳しくは、「[マルチウィンドウ会議とチャット](#)」を参照してください。

### 制限事項

- 管理者およびユーザーが定義したバックグラウンドの置換はサポートされていません。
- この機能を有効にすると、パフォーマンスの問題が発生する場合があります。
- ICA セッションが再接続された後、効果はオフになります。ただし、Microsoft Teams UI は、前の効果がまだオンになっていることをチェックマークで示しています。Citrix と Microsoft は、この問題を解決するために協力しています。

構成方法 背景の効果機能は、次のいずれかの方法で構成できます：

- Configuration.js
- Global App Configuration Service

**Configuration.js** HTML5 向け Citrix Workspace アプリでは、**configuration.js** ファイルは `C:\Program Files\Citrix\Receiver StoreFront\HTML5Client` フォルダにあります。このファイルを編集して、背景の効果機能を構成します。

注:

- Citrix では、**configuration.js** ファイルに変更を加える前に、バックアップを作成することをお勧めします。
- **configuration.js** ファイルを編集するには、管理者レベルの資格情報が必要です。

背景の効果を有効にするには、以下の手順を実行します:

1. **HTML5Client** フォルダの **configuration.js** ファイルに移動します。
2. **backgroundEffects** 属性を追加し、この属性を **true** に設定します。例:

```
1  'features' : {
2
3      'msTeamsOptimization' :
4      {
5
6          'backgroundEffects' : true
7      }
8
9  }
10
11 <!--NeedCopy-->
```

3. 変更を保存します。

**Global App Configuration Service** クラウド環境では、管理者は Global App Configuration Service で **backgroundEffects** 属性を **False** に設定することで、背景の効果機能を有効にできます。

詳しくは、[Global App Configuration Service](#) のドキュメントを参照してください。

### Microsoft Teams のマルチウィンドウチャットと会議

バージョン 2301 以降では、Microsoft Teams でのチャットと会議に複数のウィンドウを使用できます。会話や会議をさまざまな方法でポップアウトできます。

ポップアウトウィンドウ機能について詳しくは、「[Pop out a chat in Teams](#)」を参照してください。トラブルシューティングについては、[CTX253754](#)を参照してください。

Microsoft では、将来的に単一ウィンドウのサポートを廃止する予定です。古いバージョンの Citrix Workspace アプリまたは Virtual Delivery Agent (VDA) を実行している場合は、次のバージョンにアップグレードできます:

- Citrix Workspace アプリ 2301 以降  
および

- VDA - 2203 以降

### Microsoft Teams のライブキャプション

Microsoft Teams の最適化では、Microsoft Teams でライブキャプションが有効になっているときにスピーカーが話す内容のリアルタイムの文字起こしがサポートされています。

#### セカンダリ呼び出しのサポート

セカンダリ呼び出し機能を使用して、Microsoft Teams が最適化されているときに受信通知を受け取るセカンダリデバイスを選択できます。

たとえば、スピーカーをセカンダリ呼び出し機器として設定し、エンドポイントがヘッドフォンに接続されているとします。この場合、Microsoft Teams は受信の呼び出し音をヘッドフォンとスピーカーの両方に送信します。次の場合、セカンダリ呼び出しを設定することはできません：

- 複数のオーディオデバイスが接続されていない場合
- 周辺機器（Bluetooth ヘッドセットなど）が利用できない場合

注：

デフォルトでは、この機能は無効になっています。

構成 セカンダリ呼び出し音機能は次のいずれかの手段で有効にできます：

### Configuration.js

メモ：

- Citrix では、**configuration.js** ファイルに変更を加える前に、バックアップを作成することをお勧めします。
- **configuration.js** ファイルを編集するには、管理者レベルの資格情報が必要です。

**configuration.js** ファイルを使用してこの機能を有効にするには、次の手順を実行します：

1. **configuration.js** ファイルに移動します。

注：

**configuration.js** ファイルは、`C:\Program Files\Citrix\HTMLClient` フォルダにあります。

2. このファイルを編集し、**secondaryRingtone** の値を **true** に設定します。

このような JSON データの例を次に示します：

```
1  {
2
3      'features':{
4
5          'msTeamsOptimization':{
6
7              'secondaryRingtone' : true
8          }
9      }
10
11
12
13 }
14
15 <!--NeedCopy-->
```

3. 変更を保存します。

#### 最適化された **Microsoft Teams** ビデオ会議通話でサイマルキャストの実装

2312 リリース以降、最適化された Microsoft Teams ビデオ会議通話に対して、デフォルトでサイマルキャストサポートが有効になっています。このサポートにより、さまざまなエンドポイントでのビデオ会議通話の品質とエクスペリエンスが向上します。適切な解像度に適応することによってすべての発信者に最適な通話エクスペリエンスを提供します。

この向上したエクスペリエンスにより、各ユーザーは、複数のビデオ ストリームを異なる解像度（720p、360p など）で配信できます。これは、エンドポイントの機能、ネットワークの状態などのいくつかの要因によって異なります。次に、受信側のエンドポイントは、可能な範囲で最高品質の解像度を要求します。これにより、すべてのユーザーに最高のビデオ体験を提供できます。

#### タッチとモビリティのサポート

June 26, 2024

#### モビリティサポート

自動ソフトキーボードポップアップを有効にするには

この機能を有効にするには、編集可能な領域をクリックしたときにソフトウェアキーボードが表示されるように、自動キーボードポリシーを構成します：

1. DDC マシンで **Citrix Studio** を開きます。

2. [ポリシー] を選択します。
3. [ポリシーの作成] をクリックします。
4. [キーボードの自動表示] を検索し、[許可] を選択します。

### モバイルプラットフォームでのコンボボックスのサポート

バージョン 2303 以降、小さな画面におけるコンボボックス内の UI 要素の選択がよりスムーズになりました。管理者は、ポリシー [コンボボックスをデバイス側で表示する] を有効にして、iOS および Android モバイルでチェックボックス、ドロップダウンリストオプション、ラジオボタンなどの選択操作をスムーズにすることができます。

詳しくは、Citrix Virtual Apps and Desktops ドキュメントの「[コンボボックスをデバイス側で表示する](#)」セクションを参照してください。

#### 注:

この機能はデフォルトで有効になっています。

### 構成

次のいずれかの方法で、拡張タッチエクスペリエンスを構成できます:

- Configuration.js
- Global App Configuration Service

**Configuration.js** HTML5 向け Citrix Workspace アプリでは、**configuration.js** ファイルは `C:\Program Files\Citrix\Receiver StoreFront\HTML5Client` フォルダーにあります。このファイルを編集して、拡張タッチエクスペリエンス機能を構成します。

#### メモ:

- Citrix では、**configuration.js** ファイルに変更を加える前に、バックアップを作成することをお勧めします。
- **configuration.js** ファイルを編集するには、管理者レベルの資格情報が必要です。

拡張タッチエクスペリエンス機能を無効にするには、次の手順を実行します:

1. **HTML5Client** フォルダーの **configuration.js** ファイルに移動します。
2. **enablePointerForTouchEvents** 属性を追加し、この属性を **false** に設定します。

例:

```
1  'ui':  
2    {  
3
```



```

4         'touch':
5             {
6
7                 'enableMobileComboBoxRedirection': false
8             }
9
10        }
11
12 <!--NeedCopy-->

```

3. 変更を保存します。

**Global App Configuration Service** クラウド環境では、管理者は Global App Configuration Service で **enablePointerForTouchEvents** 属性を **False** に設定することにより、この機能を無効にすることができます。

詳しくは、[Global App Configuration Service](#)のドキュメントを参照してください。

#### タッチデバイスでのジェスチャの機能強化

バージョン 2304 以降、Citrix Workspace アプリでは次のエンドユーザーエクスペリエンスが強化されています：

- モバイルデバイスでのジェスチャ、マルチタッチ、ソフトキーボード機能。
- タブレットモードでのソフトキーボード機能。

Citrix Workspace アプリセッションで、タップ、スワイプ、ドラッグ、ピンチ、ズームなど、一般的なマルチタッチジェスチャを使用できます。

ジェスチャガイドは次のとおりです：

これを行うには、以下の手順に従います：	<b>Citrix Workspace</b> アプリで次の操作をする：
クリック	1 本指でタップ
右クリック	タッチしたまま押さえて離す
キーボードを表示する	3 本の指でタップ（またはツールバーのキーボードアイコンをタップ）
Zoom	ピンチインとピンチアウト
ドラッグ	タッチしてそのままドラッグする方向に指を動かす
カーソルを有効にする	2 本の指でタップ

### 仮想キーボードの自動表示

バージョン 2211 以降、編集可能なフィールドにカーソルを置くと、仮想キーボードが自動的に表示されます。この機能は、仮想キーボードを表示するためにキーボードアイコンをクリックする必要があった以前の動作とは異なり、タッチスクリーンデバイスでのユーザーエクスペリエンスを向上させます。

### 参考記事

- [キーボード](#)

### 印刷

June 26, 2024

### PDF 印刷

#### 強化された PDF 印刷機能

Citrix PDF ユニバーサルプリンタードライバーを使用すると、ユーザーはホストされたアプリケーションで開かれたドキュメントを印刷できます。多くの場合、それは Citrix Virtual Apps and Desktops によって提供される仮想デスクトップ上で実行されるアプリケーションである可能性があります。ユーザーが [Citrix PDF プリンター] オプションを選択すると、ドライバーがファイルを PDF に変換して、これをローカルデバイスに転送します。ドキュメントを印刷する場合、Citrix Workspace アプリセッション内に [印刷] ウィンドウが表示されます。

#### 注:

この機能強化は Google Chrome および Mozilla Firefox ブラウザーで完全にサポートされ、デフォルトで有効になっています。

この機能を Google Chrome および Mozilla Firefox ブラウザーで無効にするには、**configuration.js** ファイルで **supportedBrowsers** の値を **false** に設定します。**configuration.js** ファイルは、**C:\program Files\Citrix\<actual path>\HTML5Client**にあります。

```
1     'pdfPrinting' : {
2
3         'directPrint' : {
4
5             'supportedBrowsers':false,
6         }
7     }
8 }
```

```
9
10 <!--NeedCopy-->
```

解像度の最適化 以前のバージョンでは、Citrix PDF プリンターを使用して文書を印刷しようとする、文書のコンテンツがぼやけて表示されることがありました。

今回、ユーザーエクスペリエンスを向上させるための最適化が導入されました。`printResolution`の値は、デフォルトで 150 に設定されています。また、コンテンツを鮮明に表示したい場合は、必要に応じて、`configuration.js`ファイルでこの値を 300 または 600 に変更できます。

```
1     'pdfPrinting' : {
2
3         'directPrint' : {
4
5             'printResolution' :150  }
6
7     }
8
9 <!--NeedCopy-->
```

#### 制限事項:

この機能強化は、HTML5 HDX SDK を使用して起動されたセッションではサポートされません。

印刷の [続行] ダイアログを非表示にするには 強化された印刷機能が無効になっている場合、印刷の [続行] ダイアログを非表示にして PDF を印刷できます。

デフォルトでは、「hide」オブジェクトの「printDialog」プロパティが **false** に設定されています。

**configuration.js** ファイルは、`C:\program Files\Citrix\<actual path>\HTML5Client` にあります。

印刷するには、「hide」オブジェクトの「printDialog」プロパティを **true** に設定します。

#### 注:

- Citrix では、**configuration.js** ファイルに変更を加える前に、バックアップを作成することをお勧めします。
- HTML5 向け Citrix Workspace アプリをユーザー向けに再パッケージする場合のみ、この方法を使用することをお勧めします。
- **configuration.js** ファイルを編集するには、管理者レベルの資格情報が必要です。ファイルを編集した後、アプリを再パッケージして変更を保存してください。

```
1     {
2
3         'ui' : {
4
```

```
5     'hide':{
6
7         'printDialog': true
8     }
9
10    }
11
12    }
13
14 <!--NeedCopy-->
```

## PDF 印刷の禁止

管理者は、さまざまなプラットフォームの次のブラウザで PDF 印刷を禁止できるようになりました: Google Chrome、Mozilla Firefox、Apple Safari、Microsoft Edge (Microsoft Edge Chromium を含む)。

デフォルトでは、すべてのブラウザで PDF 印刷が許可されています。PDF 印刷を禁止するには、次の手順を実行します:

1. `C:\Program Files\Citrix\Receiver StoreFront\HTML5Client`にある **configuration.js** ファイルに移動します。
2. このファイルを編集して `disableForBrowsers` の値に **'ALL'** を設定します。
  - 特定のブラウザで PDF 印刷を無効にするには、**disableForBrowsers** の値に **'Chrome'**、**'FIREFOX'**、**'SAFARI'**、**'CHROMIUMEDGE'**、または **'MSEDGE'** を設定します。

```
1     'pdfPrinting' : {
2
3         'disableForBrowsers' : ['All']
4     }
5
6 <!--NeedCopy-->
```

または

```
1     'pdfPrinting' : {
2
3         'disableForBrowsers' : ['Chrome', 'CHROMIUMEDGE', 'MSEDGE']
4     }
5
6 <!--NeedCopy-->
```

各値の意味は以下のとおりです:

- **'MSEDGE'**: Microsoft Edge のすべてのバージョン
- **'CHROMIUMEDGE'**: Microsoft Edge Chromium のすべてのバージョン
- **'Chrome'**: Google Chrome のすべてのバージョン
- **'FIREFOX'**: Firefox のすべてのバージョン

- ‘SAFARI’ : Safari のすべてのバージョン

### PDF 印刷を設定するには

注:

次のセクションでは、PDF 印刷を構成する方法に関する古い動作について説明します。

Citrix PDF ユニバーサルプリンタードライバーを使用すると、ユーザーはホストされたアプリケーションで開かれたドキュメントを印刷できます。多くの場合、それは Citrix Virtual Apps and Desktops によって提供される仮想デスクトップ上で実行されるアプリケーションである可能性があります。ユーザーが [Citrix PDF プリンター] オプションを選択すると、ドライバーがファイルを PDF に変換して、これをローカルデバイスに転送します。PDF を新しいブラウザタブで表示したり、ローカルに接続されたプリンターで印刷したりできるようになりました。

**PDF** ユニバーサルプリンターを自動作成するで、ホストされるアプリケーションまたは Citrix Virtual Apps and Desktops で配信された仮想デスクトップ上で実行中のアプリケーションで開かれたドキュメントをユーザーが印刷できるようにするには、以下を実行します:

1. Citrix Studio の左側のペインで [ポリシー] ノードを選択し、ポリシーを作成するか、既存のポリシーを編集します。Citrix Virtual Apps and Desktops ポリシーの構成について詳しくは、「[ポリシー](#)」を参照してください。
2. ポリシーの [**PDF** ユニバーサルプリンターを自動作成する] 設定を [有効] にします。

注:

HTML5 向け Citrix Workspace アプリから起動したセッションで Citrix PDF プリンターを使用する場合は、[クライアントプリンター名] 設定をデフォルトとして設定するか、[標準のプリンター名] を選択します。古いスタイルのクライアントプリンター名を使用し、製品の Citrix Virtual Apps and Desktops に存在する従来のプリンター名との後方互換性を維持するには、[従来のプリンター名] を選択します。このオプションは、製品の最新の Citrix Virtual Apps and Desktops および Citrix DaaS バージョンで使用できます。

### CSP ヘッダーを追加して構成するには

ユーザー用に Content-Security-Policy (CSP) ヘッダーが追加されていない限り、PDF 印刷は機能します。

CSP 応答ヘッダーは、Web ブラウザーがクロスサイトスクリプト攻撃を回避するために使用するポリシーの組み合わせです。

CSP ヘッダーが Citrix Gateway の書き換えポリシーに追加されている場合、PDF 印刷は機能しません。

以下のとおり構成します:

```
img-src \'self\' data: blob:
```

(**blob**: このパラメーターを使用すると、印刷プレビューを読み込んだり印刷機能を続行したりできます)

## トラブルシューティング

January 23, 2024

### HTML5 ログ

HTML5 向け Citrix Workspace アプリは、ユーザーデバイスが生成したログにタイムスタンプを付けます。

注:

- 問題のトラブルシューティングに役立てるため、HTML5 向け Citrix Workspace アプリセッションログを表示できます。

ログページでは、以下の機能が使用できます:

- ログの有効化: HTML5 のログを有効にし、表示します。
- ログの無効化: セッションでログを無効にし、停止します。
- ログの表示: セッションに対して生成されたログを表示します。
- ログをクリア: セッションで生成されたログファイルを削除します。
- ログ ファイルのダウンロード: ログファイルを目的の場所にダウンロードします。

Citrix Workspace アプリは、進行中の仮想デスクトップおよび仮想アプリのセッションのログ収集をサポートします。以前は、進行中のセッションで [ログの開始] を選択した後に起動されたセッションのログのみを収集できました。これによって、[ログの停止] を選択するまで、進行中および次のセッションのログが収集されます。

#### モバイルデバイスのトラブルシューティングの機能強化

[ログを取得する] オプションをタップすると、セッションログファイルにすばやくアクセスできます。ログ作成オプションは、[ログ] から [ログを取得する] に変更されました。セカンダリメニューから [ログを取得する] を選択すると、ログファイルがブラウザの新しいタブではなくデバイスにダウンロードされます。

注:

進行中のセッションと最大 5 つ前までのセッションのログを収集できます。

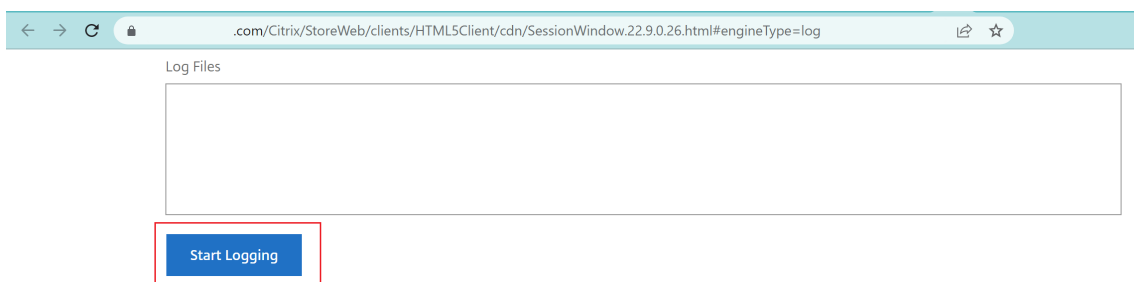
#### ログを収集する方法

HTML5 向け Citrix Workspace アプリのクライアントログを収集するには、以下を実行します:

1. HTML5 向け Citrix Workspace アプリにサインインします。
2. 次のように [ログファイル] ページにアクセスします:

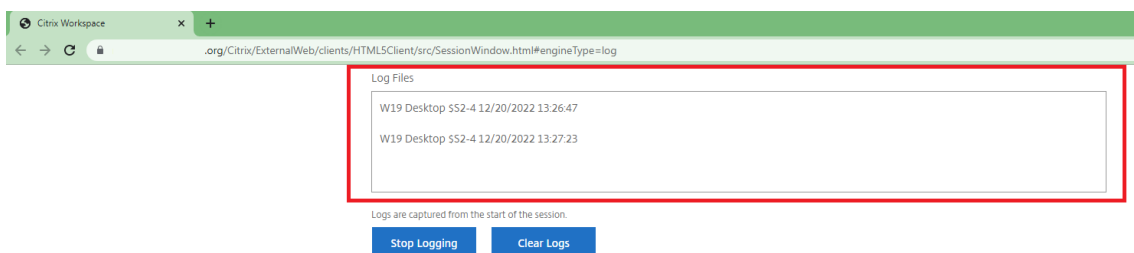
- Citrix Workspace アプリバージョン 1908 以降の場合、新しいタブを開いて、`siteurl/Clients/HTML5Client/src/SessionWindow.html#engineType=log` に移動します。ここで、**<siteurl>** は Workspace for Web サイトの URL (`https://server.domain/Citrix/StoreWeb`) です。
- Citrix Workspace アプリバージョン 1907 以前の場合、新しいタブを開いて、`siteurl/Clients/HTML5Client/src/ViewLog.html` に移動します。ここで、**<siteurl>** は Citrix Workspace for Web サイトの URL (例: `https://server.domain/Citrix/StoreWeb`) です。

3. [ログファイル] ページで [ログの開始] をクリックします。

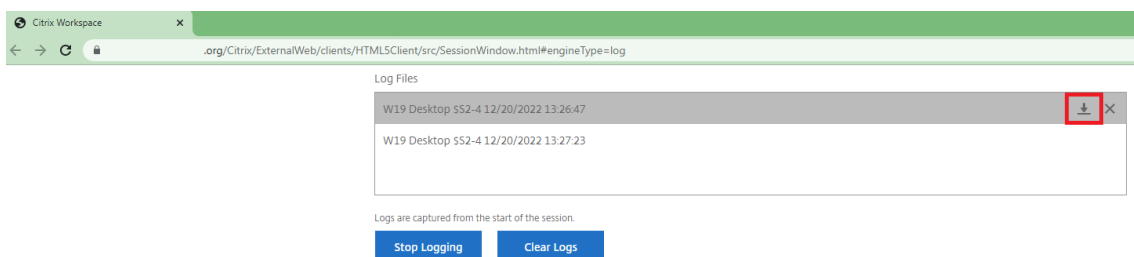


ログの作成は、現在アクティブなセッション（存在する場合）ではなく、次のセッション起動で有効になります。

4. Citrix Workspace アプリにサインインして仮想アプリセッションを開始し、問題を再現してログを収集します。問題を再現するために、セッションで作業を続けます。
5. 問題が再現されたら、セッションを閉じます。
6. HTML5 向け Citrix Workspace アプリセッションで生成されたログファイルは、ログページに表示されます。



7. 矢印ボタンをクリックして、ログファイルをダウンロードして保存します。



注:

- HTML5 向け Citrix Workspace アプリのログを有効にして表示するには、セッションツールバーメニューの [ログ] オプションを使用できます。



### コンソールログ

注:

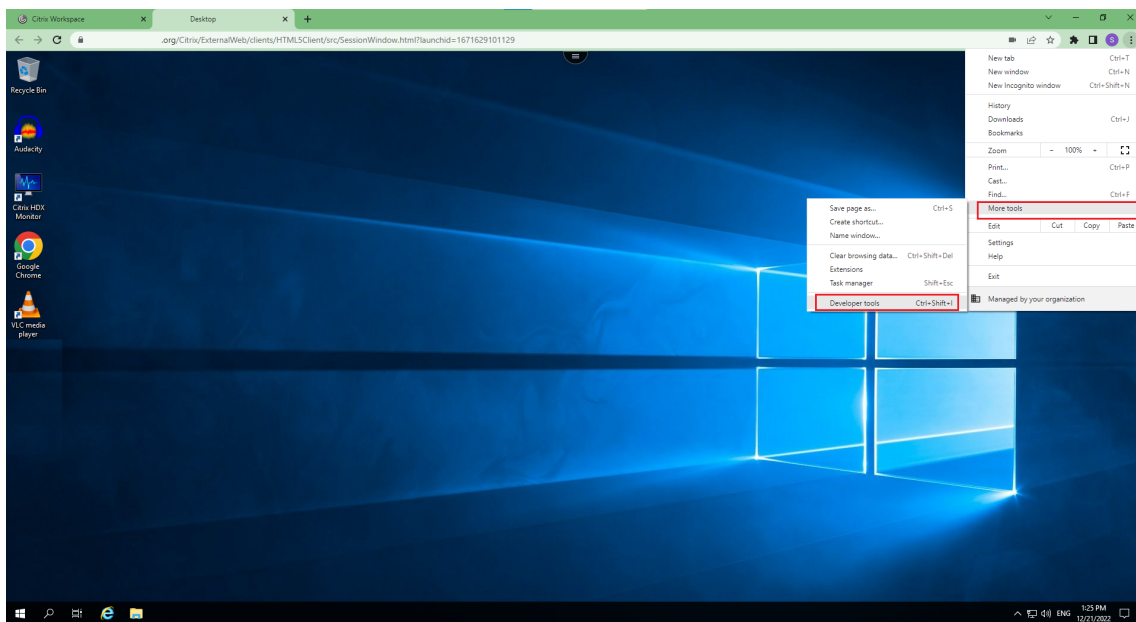
- リリース 2206 以降、コンソールログはクライアントログの一部になります。

HTML5 向け Citrix Workspace アプリのコンソールログを収集するには、以下を実行します:

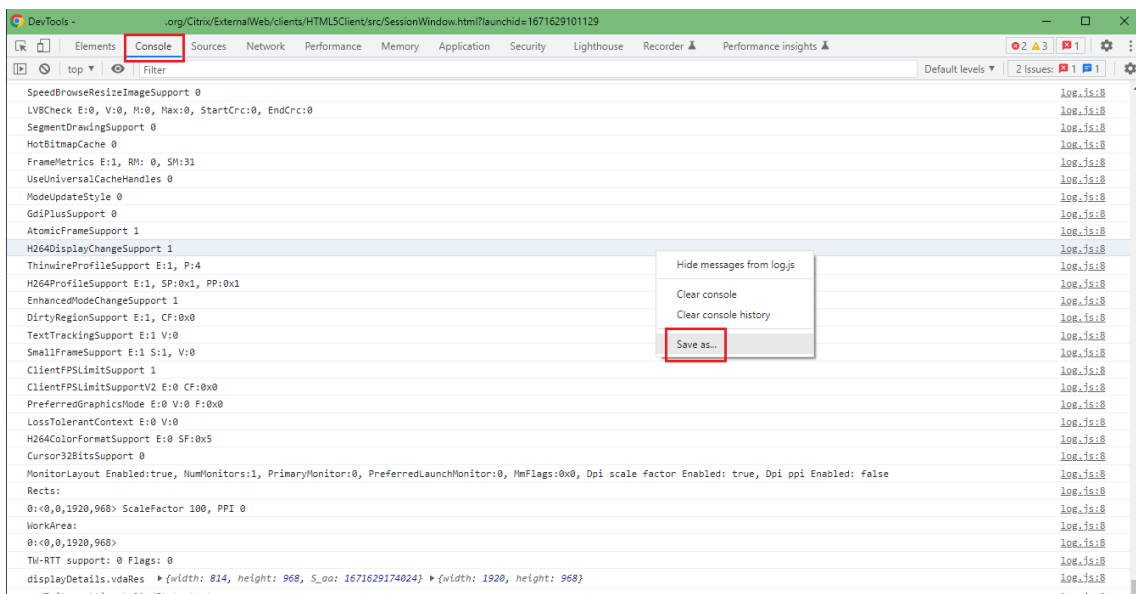
1. セッション実行中の Web ブラウザーのタブで、開発者ツールを開きます。たとえば、Google Chrome ブラウザーでは、[その他のツール] オプションの下に [デベロッパーツール] があります。



## HTML5 向け Citrix Workspace アプリ



2. 開発者ツールを開いて **[Console]** をクリックします。
3. 右クリックして **[Save as]** オプションを選択し、ログ全体を保存します。



## USB リダイレクトログ

ログを有効にして USB リダイレクト関連の問題のログを収集するには、以下の手順を実行します：

### ログの有効化

1. `configuration.js` ファイルを編集して、HTML5\_CONFIG セクションに移動します。

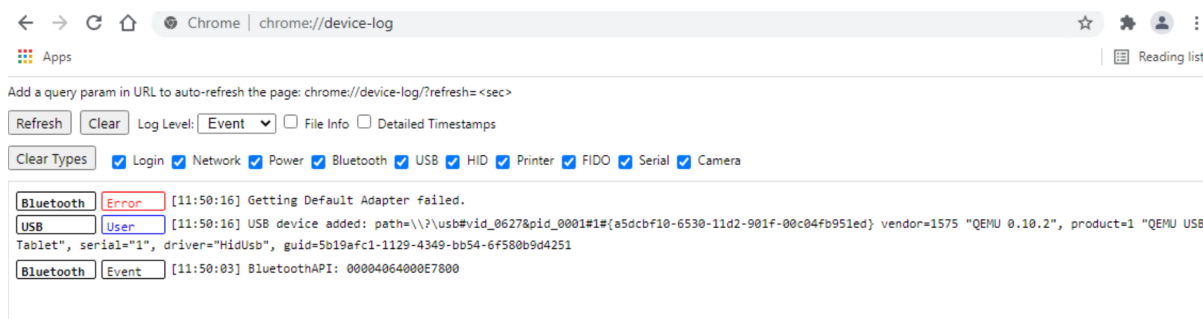
2. 値 **moreLogs{ 'usb' : true}** を追加します。この設定は StoreFront に関係します。  
`configuration.js` ファイルは `C:\program Files\Citrix <actual path>\HTML5Client` にあります。

### ログの収集

ログを収集するには、「[ログを収集する方法](#)」を参照してください。

### デバイスログ

デバイスログを収集するには、Google Chrome ブラウザーで新しいタブを開き、**chrome://device-log** を入力してログを共有します。



## Microsoft Teams の最適化ログ

Microsoft Teams の最適化は、最新の shim ライブラリバージョン 1.10.0.0 をサポートします。

使用している現在の shim バージョンを確認するには:

1. Microsoft Teams アプリケーションを開き、ユーザーの 1 人との通話を開始します。
2. 通話が確立されたら、Microsoft Teams ウィンドウを最大化します。
3. セッション内の スクリーンキーボード を開き、**Ctrl + Alt + Shift + 1** キーをクリックします。  
これで、VDA のダウンロードフォルダーにあるログファイルを表示できます。
4. **\*\*MSTeams\_Diagnostics Log <日付><時間>.txt\*\*** ファイルを開いて、**\*\*type\_script\*\*** で shim バージョンを検索します。例: `"version":{"type_script":"1.10.0.0"}`。時間 > 日付 >

## セキュリティ

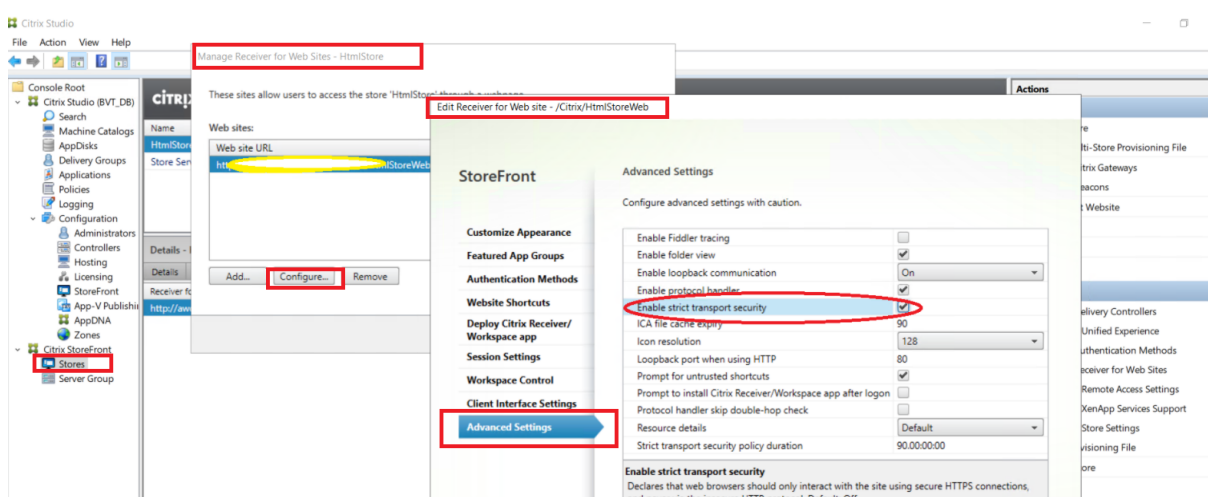
September 14, 2023

### セキュリティ設定

Citrix ではセキュアなストアを使用することをお勧めします。さらに、セキュアストアに対して HTTP strict transport security (HSTS) 設定を有効にすることをお勧めします。

次の手順を実行して、**HSTS** 設定を有効にします：

1. **Citrix StoreFront** の [ストア] で、特定のストアのリンクをクリックしてセキュリティ設定を有効にします。
2. **[Receiver for Web サイトの管理]** ダイアログボックスが開きます。
3. **[構成]** をクリックします。
4. **[Receiver for Web サイトの編集]** ダイアログボックスが開きます。
5. **[詳細設定]** タブをクリックし、**[厳格な転送セキュリティを有効にする]** を選択します。



## SDK

December 19, 2023

## HDX SDK

Citrix Workspace アプリでは、Web サイトを介してシトリックスがホストするアプリおよびデスクトップの配信方法をカスタマイズでき、これにより HDX および SDK セッションのサポートが強化されています。

この機能は、エンタープライズポータルに豊富なアプリエクスペリエンスを構築する場合に役立ち、サービスとしてユーザーにとって有用です。Web サイトからシトリックスがホストするアプリやデスクトップを起動する一方で、Web サーバー上では HTML5 向け Citrix Workspace アプリをホストして、エクスペリエンスを提供できます。

HTML5 向け Citrix Workspace アプリの HDX SDK ドキュメントについては、[HDX SDK for HTML5](#)を参照してください。

HDX SDK の例については、Citrix[ダウンロードページ](#)を参照してください。

### **HDX SDK for HTML5** を使用した **HTML5** 向け **Citrix Workspace** アプリ自動更新のサポート

Citrix HDX SDK for HTML5 により `setPath` API が拡張され、CDN から配信される HTML5 向け Citrix Workspace アプリの最新ビルドを使用します。この機能強化により、HTML5 向け Citrix Workspace アプリが最新バージョンでシームレスに実行されます。HDX SDK for HTML5 の既存ユーザーの場合、CDN から配信される最新バージョンを使用するように、顧客コードの `citrix.receiver.setPath` を変更します。新規ユーザーの場合、デフォルトで、`setPath` API によりこのオプションが提供されます。

CDN はデフォルトで提供されています。CDN に問題がある場合は、ホストされる場所がフォールバックパスを提供します。詳しくは、「[HDX SDK for HTML5](#)」を参照してください。

### **Citrix HDX SDK for HTML5** の最新バージョン

セッションを開始するには、最新バージョンの Citrix HDX SDK for HTML5 を使用していることを確認してください。そうしないと、セッションを開始できない可能性があります。

詳しくは、「[Citrix Workspace app for HTML5 HDX SDK](#)」を参照してください。

### 仮想チャネル **SDK** のサポート

Citrix 仮想チャネル (VC) SDK は、ICA プロトコルを使用して、サーバー側アプリケーションやクライアント側ドライバーの作成をサポートします。サーバー側仮想チャネルアプリケーションは、Citrix Virtual Apps and Desktops サーバー上にあります。

VC SDK は新しい仮想チャネルの作成をサポートし、HTML5 向け Citrix Workspace アプリは最大 20 のカスタム仮想チャネルをサポートできます。

#### 機能の制限事項

- 仮想チャネルの構成が正しくない場合、30 秒の遅延が発生することがあります。
- カスタム VC を作成するときは、「CTX」以外で「streamName」を開始します。

詳しくは、「[Citrix Virtual Channel SDK for Citrix Workspace app for HTML5](#)」を参照してください。

## 廃止

April 5, 2024

この記事の告知は、段階的に廃止されるプラットフォーム、Citrix 製品、機能について前もってお知らせするためのものです。これらの告知を基にして、お客様は適宜ビジネス上の決定を下すことができます。

Citrix ではお客様の使用状況とフィードバックをチェックして、各プラットフォーム、Citrix 製品、機能を撤廃するかどうかを判断しています。お知らせする内容は以降のリリースで変わることがあり、廃止される機能がすべて含まれるわけではありません。

廃止となったアイテムはすぐには削除されません。このリリースでは引き続きサポートされますが、今後削除される予定です。

アイテム	廃止が発表されたリリース	削除されたリリース	代替手段
Internet Explorer 11	-	2206	サポートされている他の Web ブラウザーを使用してください
従来のブラウザー	-	2206	最新バージョンのブラウザーを使用してください



© 2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved. Cloud Software Group, the Cloud Software Group logo, and other marks appearing herein are property of Cloud Software Group, Inc. and/or one or more of its subsidiaries, and may be registered with the U.S. Patent and Trademark Office and in other countries. All other marks are the property of their respective owner(s).